2-595-576-**02** (1)

Hi-MDシステムステレオ

パーソナル
コンポーネントシステム

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Hi-MD AUDIO

NetMD
MDLP

Atrac CD
vpt speakers

CMT-AH10

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～9ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネット、電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

お使いになる前に

この取扱説明書では、パーソナルコンポーネントシステム本体の使いかたを説明しています。パソコンとつないで使う基本的な操作や、ソフトウェアの詳しい操作についてはそれぞれのマニュアルがあります。下記を参照して必要なマニュアルをお使いください。

本機を使うときは

■ 取扱説明書（本書）

本機の操作全般についてのマニュアルです。本機の操作について詳しくはこちらをご覧ください。

● 本体とリモコンでの操作について

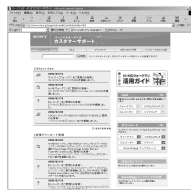
本書では、リモコンでの操作を中心に説明していますが、本体でも同じ、または類似した名前のボタンを使って同様の操作ができます。
「各部のなまえ」（16～21ページ）も併せてご覧ください。

本機をパソコンにつないで使うときは

■ ソフトウェア　インストール・基本操作ガイド

ソニックステージ
付属のソフトウェア（SonicStage）のインストール方法と基本的な操作について説明しています。

■ SonicStageヘルプ

パソコンの画面で見る電子マニュアルです。付属のソフトウェアSonicStageの中に入っています。
SonicStageの使いかたについて、「インストール・基本操作ガイド」よりもさらに詳しく説明しています。また、SonicStageをご使用中に困ったことがあった場合も、こちらをご覧ください。

■ パーソナルオーディオ・カスタマーサポート

インターネット上のホームページです。本機と付属のSonicStageソフトウェアの最新サポート情報を見ることができます。
http://www.sony.co.jp/support-pa/

目次

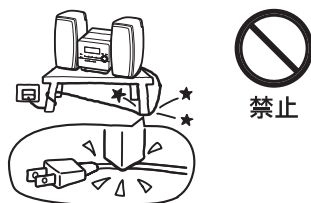
警告

火災

感電

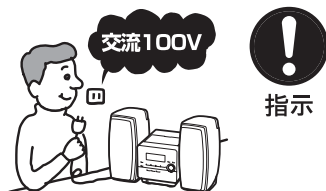
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

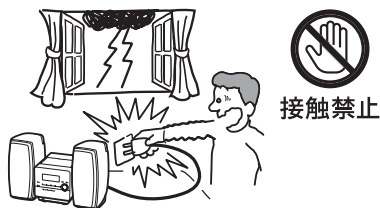
内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

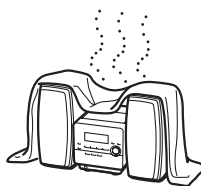
万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

海外では使用しない

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

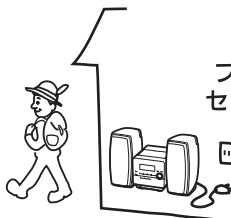
通風孔をふさがない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさがないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

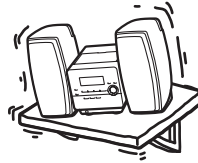
下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。
内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

移動させるとき、長時間使わないときは、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
長期間の外出・旅行のときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。差し込んだままにしていると火災の原因となることがあります。

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

幼児の手の届かない場所に置く

フロントパネルなどに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

禁止

円形ディスク以外は使用しない

円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、ディスクが内部に落ち故障の原因となったり、高速回転によりディスクが飛び出し、けがの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ•破裂•発熱•発火•誤飲による**大けがや失明**を避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠危険 ボタン型電池が液漏れしたとき

ボタン型電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない。

液が本体内部に残ることがあるため、お客様ご相談センターまたはソニーサービス窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠警告 ボタン型電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届くところに置かない。万が一飲み込んだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談する。
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの貴金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使いきった電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。

⚠注意 ボタン型電池について

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。

付属のソフトウェアについて

□権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
□本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
□万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
□本機に付属のソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
□本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
□本機に付属していないソフトウェアを使用した際の動作は保証しておりません。

- SonicStageおよびそのロゴはソニー株式会社の商標です。
- OpenMG、Hi-MD、Net MD、ATRAC、ATRAC3、ATRAC3plusおよびそのロゴはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft 、Windows およびWindows Media は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
なお、本文中では™、®マークは明記していません。

録音についてのご注意

- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- 本製品およびパソコンの不具合により、録音やダウンロードができなかった場合および音楽データが破損または消去された場合、データ内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用はできません。なお、この商品の価格には、著作権上の定めにより、私的録音保証金が含まれております。
（お問い合わせ先（社）私的録音保証金管理協会　Tel.03-5353-0336）

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

本機で再生できるディスクは？

音楽 CD:

CDDA フォーマット

CDDAは、Compact（コンパクト） Disc（ディスク） Digital（デジタル） Audio（オーディオ）の略で、一般音楽CDの規格です。

ATRAC CD:

SonicStageを使ってATRAC3plus（アトラックスリープラス）*やATRAC3（アトラックスリー）*フォーマットの音声データを記録したCD-R/CD-RWディスク**

ATRAC3は、Adaptive（アダプティブ） Transform（トランスフォーム） Acoustic（アコースティック） Coding3（コーディングスリー）の略で、高音質と高圧縮を両立させた音声圧縮技術です。ATRAC3plusは、ATRAC3をさらに発展させ、音声データをCDの約20分の1（ビットレートが64 kbpsのとき）に圧縮する音声圧縮技術です。

MP3 CD:

SonicStageやその他のソフトウェアを使ってMP3フォーマットの音声データを記録したCD-R/CD-RWディスク**

MP3は、MPEG-1 Audio Layer3の略で、音声データをCDの約10分の1に圧縮する音声圧縮技術です。

MD:

60/74/80分ディスク

Hi-MD:

Hi-MD規格専用 1GBディスク

SonicStageでは、音声データの種類が混在したディスクを作ることはできません。

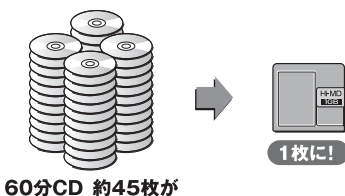
*　ATRAC3plusとATRAC3はソニー株式会社の商標です。
** ISO 9660 Level 1/2形式とJoliet拡張形式でフォーマット済みのディスク。

著作権保護技術付音楽ディスクについて

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

DualDiscについて

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠したディスクの再生を前提として、設計されています。本製品において万一、DualDiscの音楽専用面の再生を試みた場合、DualDiscのDVD面に再生において問題となる傷を生じる可能性がありますので、本製品ではDualDiscはご使用になれません。

Hi-MDでこんなことができます!

“Hi-MD”とは、従来のMDが進化した新しい規格です。

ディスク1枚にたくさんの音楽データを入れる

Hi-MD規格専用1GBディスクに最大45時間の録音が可能です。従来の60/74/80分ディスクも記録密度を約2倍にして録音することができます。1枚のディスクにたくさんの音楽データが入るので持ち運びも便利です。

1枚のディスクに記録できる時間[1]	
1GBディスク	**約45時間 (CD約45枚分[2])**
80分ディスクの 容量倍増	**約13.5時間 (CD約13枚分[2])**

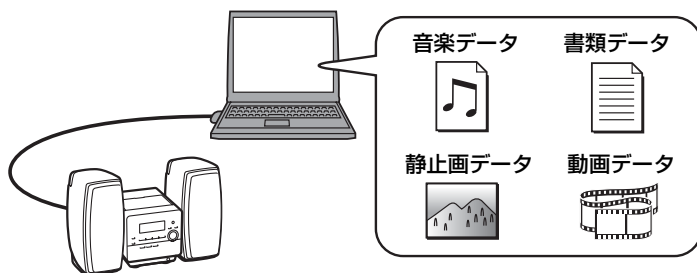
1) パソコンから音楽データを転送した場合（ATRAC3plus/48kbps）
2) CD1枚約60分の場合

従来の MDシステムステレオでは…… 80分ディスクで最大約5時間20分の録音時間（MDLPのLP4モードで録音した場合）

高音質録音・再生を楽しむ

リニアPCMとATRAC3plusの技術により、高音質での録音・再生を楽しむことができます。

CDと同じ音質で
デジタル圧縮しない記録方式

高音質と高圧縮を
両立させた音声圧縮技術

従来の MDシステムステレオでは…… ATRAC/ATRAC3での録音・再生

従来の60/74/80分ディスクもお使いいただけます。

音楽データの他に書類・画像データも記録

パソコンのデータをドラッグ＆ドロップの簡単操作でディスクに保存できます。

パソコンと双方向でデータを転送

付属のSonicStageソフトウェアを使ってパソコンから音楽を高速で転送できるほかに、サウンドゲートで録音した音楽をパソコンに転送し、管理することができます。

音楽を持ち出す

録音した音楽をパソコンで管理する

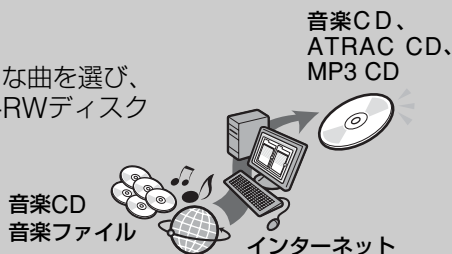
オリジナルCDを作って楽しもう

本機では、通常の音楽CDに加えて、付属のSonicStageソフトウェアを使ってパソコンで作成したオリジナルのCD（ATRAC CD、MP3 CDと呼ぶ）を再生できます。SonicStageを使うと、たとえばATRAC形式では音楽CD約30枚分*の曲を1枚のCD-RまたはCD-RWに記録できます。オリジナルのCDに入れた音楽を聞くまでの流れは以下のとおりです。

SonicStageをパソコンにインストールする

SonicStageは、音楽CDやインターネットから音楽をパソコンに取り込んで、オリジナルのCDを作るソフトウェアです。付属のCD-ROMからインストールします。

オリジナルCDを作る

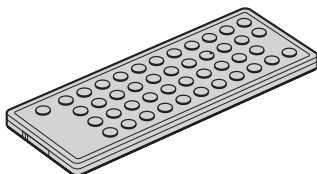
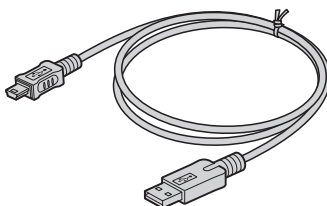
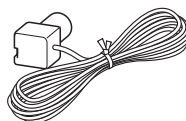
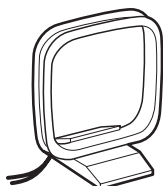
パソコンに取り込んだ音楽から好きな曲を選び、SonicStageを使って、CD-R/CD-RWディスクに書き込みます。

本機のCDプレーヤーで聞く

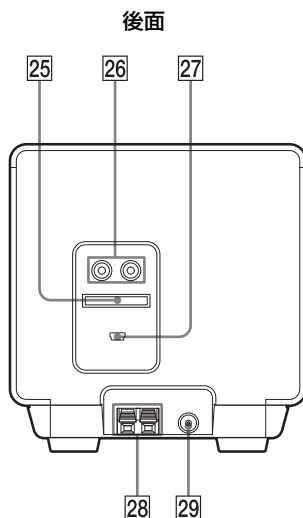
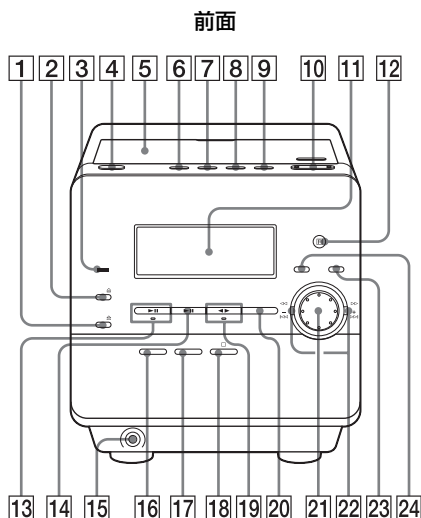
たくさんの曲が入ったオリジナルのCDを、手軽に楽しめます。

SonicStageのインストール方法やオリジナルCDの作りかたは、付属の「ソフトウェア インストール・基本操作ガイド」をご覧ください。

* 700MB（メガバイト）のCD-R/CD-RWディスクに、1枚あたり約60分の音楽CDをATRAC3plus、48kbpsで記録したときの換算です。

付属品を確かめる

●リモコン

●FMアンテナ

●AMループアンテナ

●専用USBケーブル

●CD-ROM（SonicStage）
●CMT-AH10取扱説明書・保証書
●ソフトウェア　インストール・基本操作ガイド
●カスタマー登録のご案内
●ソニーご相談窓口のご案内

ご注意

本機を初めてパソコンに接続するときは、接続前に、必ず付属のCD-ROMを使用してソフトウェア「SonicStage」をインストールしてください。

各部のなまえ

くわしい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体

前面

後面

1 CD ≜ボタン
CDスロットを開閉します。

2 MD ≜ボタン
MDスロットを開閉します。

3 BUSY（ビジー）ランプ
点灯または点滅している間は情報を読み込んでいます。

4 I/⏻（電源）スイッチ

5 カセットぶた

6 HIGH（ハイ） SPEED（スピード） REC（レコーディング）ボタン
CDからMDにシンクロ録音を高速で行います（32、66、67）。

7 REC（レコーディング） MODE（モード）ボタン
MD録音モード、MDグループ録音、トラックマークモードの設定に使います（31、40、46、68、69）。

8 MD REC（レコーディング）ボタン
MDにマニュアル録音します（47）。

9 TAPE REC（テープレコーディング）ボタン
テープにマニュアル録音します（86）。

10 VOLUME（ボリューム）（音量）＋*、–ボタン

11 表示窓

12 リモコン受光部

13 MD►II（再生／一時停止）ボタン

14 CD►II（再生／一時停止）ボタン

15 🎧端子
ヘッドホン（別売り）を接続します。

16 FUNCTION（ファンクション）ボタン
音源の切り換えに使います。
押すたびに「MD」、「CD」、「TAPE」、「TUNER」、「LINE」が切り換わります。

17 PC MODEボタン
パソコンと接続するときに使います（99）。

18 ■（停止）ボタン

19 TAPE ◀▶（再生）ボタン

20 TUNER BANDボタン
押すと自動的にラジオの電源が入ります。FMまたはAMに切り換えます。

21 ジョグダイヤル
メニュー設定項目や曲、グループを選びます（49、57、58～60、65）。

チューナーのプリセットした放送局を呼び出します（88）。

22 ◀◀/▶▶ •TUNE +/－•|◀◀/▶▶|ボタン
◀◀、▶▶（サーチ）：テープの早送り/早戻しをします（38）。

MD、CDの再生中または一時停止中にボタンを押し続けると、曲中の好きなところを探すことができます（58）。

TUNE +/－：ラジオ受信時に周波数を合わせます（43、87）。

|◀◀、▶▶|（AMS）：CD、MDの曲の頭出しをします（27、36）。

23 ENTER（決定）ボタン
選んだ項目を決定します（49）。

24 CANCEL（取消し）ボタン
選んだ項目を取り消します（49）。

25 SPEAKER OUT（POWER IN）端子
付属のスピーカーから電源を供給します（22、23）。

26 LINE IN端子
テレビやビデオなどの機器をつなぎます（46、86、102）。

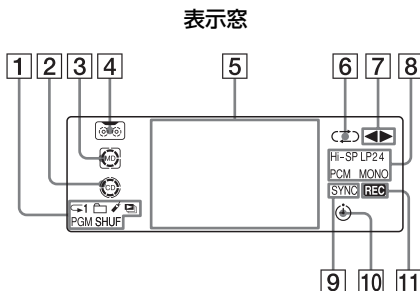
27 USB端子
付属の専用USB接続ケーブルを使って、パソコンと接続します（98）。

28 AM EXT ANT（外部アンテナ）端子（22）

29 FM EXT ANT（外部アンテナ）端子（22）

* VOLUME +ボタンに凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。

次のページへつづく

表示窓

1 プレイモード表示（60）

2 CDディスク表示
再生中は黒い円が回転します。

3 MDディスク表示
再生、録音中は黒い円が回転します。

4 テープ表示
再生、録音中は黒い円が回転します。

5 文字情報表示部

6 ディレクションモード表示
テープの走行のしかたを表示します（38、40、83〜85）。

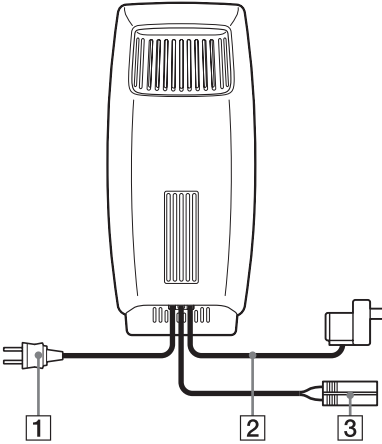
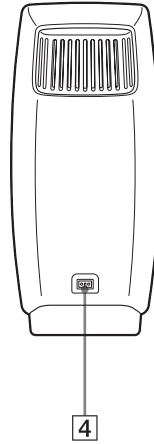
7 テープ走行表示（37、38、83〜86）

8 録音／再生モード表示
MD録音中は、選んだモードが表示されます（31、40、46）。
再生中は記録されているモードが表示されます（31）。
停止中は、直前にMDを録音したときのモードが表示されます。

9 SYNC（シンクロ）表示
MDまたはTAPEにシンクロ録音しているときに表示されます（32、41、66、67、83、84）。

10 タイマー動作中表示
タイマーを設定した時刻になると表示されます（94、96）。

11 REC（レコーディング）表示
MDまたはテープに録音中に表示されます。

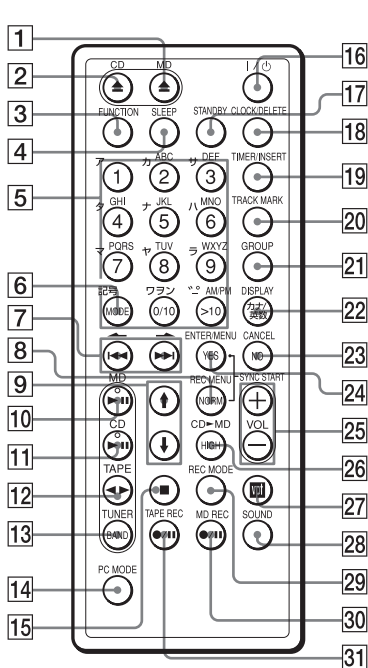
スピーカー

1 電源プラグ
壁のコンセントにつなぎます(22、23)。

2 接続コード
本体のSPEAKER OUT (POWER IN)
端子に接続します(22、23)。

3 スピーカーコード
左スピーカーのSPEAKER端子に接続します (22)。

4 SPEAKER端子
右スピーカーのスピーカーコードを接続します (22)。

次のページへつづく

リモコン

1 ≜MDボタン
MDスロットを開閉します。

2 ≜CDボタン
CDスロットを開閉します。

3 FUNCTION（ファンクション）ボタン
音源の切り換えに使います。
押すたびに「MD」、「CD」、「TAPE」、「TUNER」、「LINE」が切り換わります。

4 SLEEP（スリープ）ボタン
音楽を聞きながら眠るときに使います（96）。

5 数字／文字ボタン
CD、MDのダイレクト選曲、MDの文字入力や時計、タイマーの日時設定、チューナーのプリセット番号の選択、放送局名入力に使います（24、57、72、88、93、95）。

6 MODE（モード）ボタン
CD/MD：サブ再生モードの切り換え、リピート再生の設定に使います（64）。

ラジオ：FM受信時、ステレオ／モノラル受信を切り換えます（44）。

テープ：走行のしかた（ディレクションモード）を切り換えます（38、40、83〜85）。

LINE：接続した機器の入力感度を切り換えます。

7 ⏮、⏭（AMS／サーチ）•◀━、━▶ボタン
⏮、⏭：CD、MDの曲の頭出しをします（27、36）。

MD、CDの再生中または一時停止中にボタンを押し続けると、曲中の好きなところを探すことができます（58）。

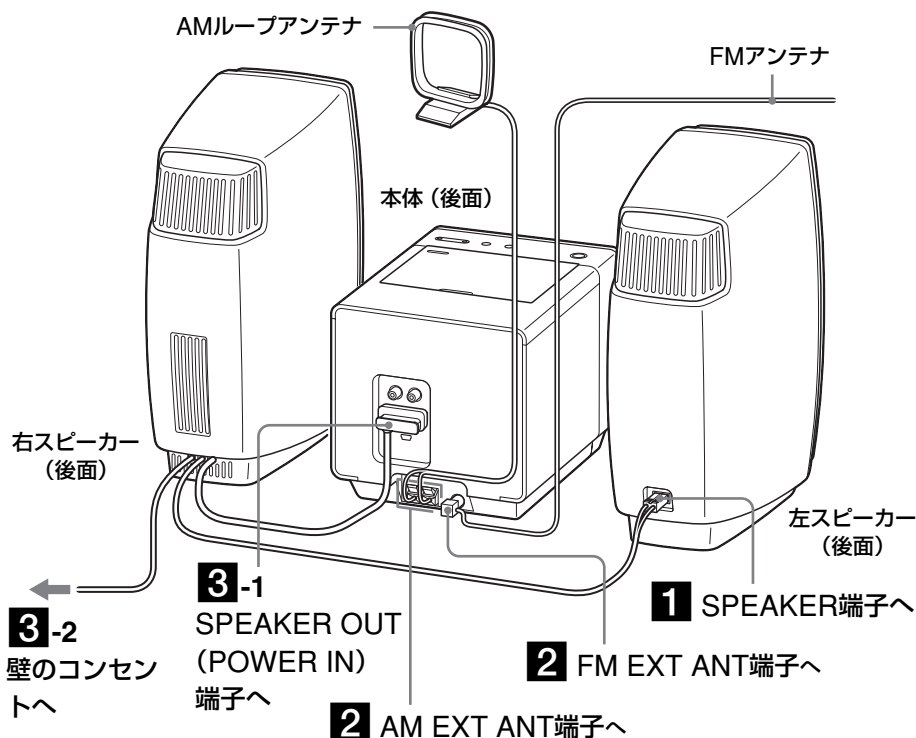
テープの早送り/早戻しをします（38）。

◀━、━▶：ラジオ受信時に周波数を合わせます（43、87）。

そのほか、表示窓のコントラストやタイマーの音量設定項目を選んだり（25、93、95）、MDの名前をつけるときやチューナーの放送曲名入力のときにも使います（72）。

8 REC MENU（レコーディングメニュー） NORM（ノーマル）ボタン
シンクロ録音するとき、音源と録音先を選びます。⬆または⬇ボタンを押すたびに次のように切り換わります（32、41）。

```
→「 CD ➔ MD 」→「CD ➔ TAPE」
└「TAPE ➔ MD」←「MD ➔ TAPE」←
```

10 MD▶II（再生／一時停止）ボタン*

11 CD▶II（再生／一時停止）ボタン*

12 TAPE ◀▶（再生）ボタン

13 TUNER（チューナー） BAND（バンド）ボタン
押すと自動的にラジオの電源が入ります。FMまたはAMに切り換えます。

14 PC MODEボタン
パソコンと接続するときに使います（99）。

15 ■（停止）ボタン

16 I/⏻（電源）ボタン

17 STANDBY（スタンバイ）ボタン
タイマーの予約をするときに使います（94〜96）。

18 CLOCK（クロック）/DELETE（デリート）ボタン
時計の設定や、MDに名前をつけたり、記憶させた放送局に放送局名をつけるとき、文字削除に使います（24、72、88）。

19 TIMER（タイマー）/INSERT（インサート）ボタン
タイマーの設定や、MDに名前をつけたり、記憶させた放送局に放送局名をつけるとき、文字挿入に使います（72、88、93、95）。

20 TRACK（トラック） MARK（マーク）ボタン
MDで、曲の途中にトラックマークをつけたり消したりします（48、80、81）。

21 GROUP（グループ）ボタン
グループのあるMDやCDで、グループの一覧を表示させます（58）。また、アーティスト再生やアルバム再生時にアーティストやアルバム単位の頭出しに使います（58、62）。

22 DISPLAY（ディスプレイ）•カナ／英数（表示切り換え•文字入力切り換え）ボタン
表示窓の情報を切り換えます（54〜56）。

MDの文字入力、放送局名入力をするときに入力モードを切り換えるのに使います（72）。

23 NO（ノー）•CANCEL（キャンセル）ボタン
選んだ項目を取り消します。長押しで、メニュー操作を全て取り消します（49）。

24 YES（イエス）•ENTER（エンター）/MENU（メニュー）ボタン
長押しで、メニュー項目を選ぶ画面に切り換わります。単押しで、選んだ項目を決定します。
そのほか、CDやMDでは、単押しでメイン再生モードを選ぶ画面に切り換わります。

25 VOL（ボリューム）（音量）＋、－ボタン

26 CD►MD HIGH（ハイ）（高速録音）ボタン
CDからMDにシンクロ録音を高速で行います（32、66、67）。

27 vpt（サラウンド）ボタン（92）
SORROUND、WIDE、OFF（標準）からお好きな音質を選びます。

28 SOUND（サウンド）ボタン
5種類からお好きな音質を選びます（91）。

29 REC MODE（レコーディングモード）ボタン
MD録音モード、MDグループ録音、トラックマークモードの設定に使います（31、40、46、68、69）。

30 MD REC（レコーディング） ●/IIボタン
MDにマニュアル録音します（47）。

31 TAPE REC（テープレコーディング）●/IIボタン
テープにマニュアル録音します（86）。

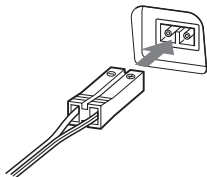
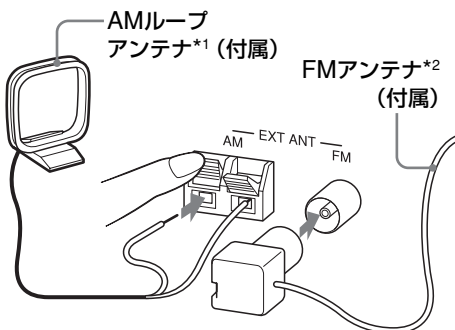
* 凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。

接続する

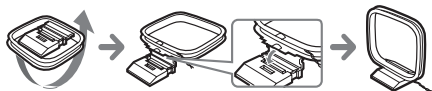
コードはしっかり差し込んでください。間違った接続は誤動作の原因になります。

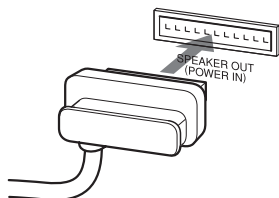
AMループアンテナ
FMアンテナ
本体（後面）
右スピーカー（後面）
左スピーカー（後面）
1 SPEAKER端子へ
3-1 SPEAKER OUT（POWER IN）端子へ
3-2 壁のコンセントへ
2 FM EXT ANT端子へ
2 AM EXT ANT端子へ

1 スピーカーを接続する

右のスピーカーから出ているスピーカーコードを、左のスピーカーのSPEAKER端子に接続する。

2 アンテナを本体に接続する

*1 ループアンテナを最も受信状態の良い方向へ向ける。

*2 アンテナはできるだけ水平に伸ばす。

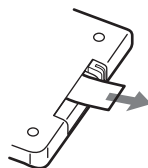
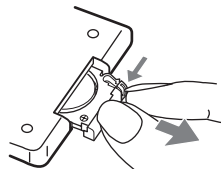
AMループアンテナの組み立てかた

3 電源コードを接続する

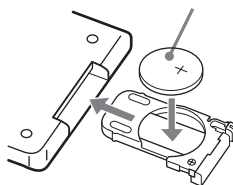
1 右のスピーカーから出ている接続コードを本体のSPEAKER OUT（POWER IN）端子に接続する。

2 右のスピーカーから出ている電源コードのプラグを壁のコンセントへつなぐ。

ご注意

電源コードを抜くときは、本体の電源を切ってから抜いてください。
停電があった場合には、記憶させた時計やタイマーなどの内容が消えることがあります。記憶させた内容が消えた場合、それぞれ設定し直してください。

リモコンの準備をする

絶縁シートを引き抜いてリモコンを使用できる状態にする。
リモコンには電池がすでに入っています。

電池の交換について

電池が消耗してくると、リモコンで操作できる距離が短くなります。
下記の手順で、電池を新しいものと交換してください。ふつうの使い方で約6ヶ月もちます。

1 電池ケースを取り出す。

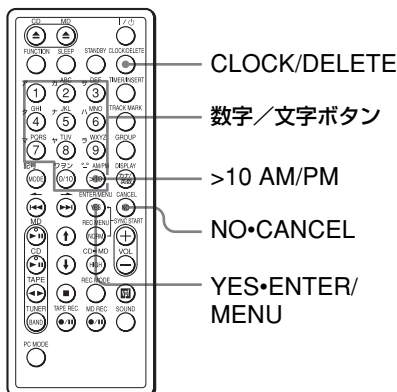
2 ＋と書かれた面を上にしてリチウム電池CR2025を新しい電池と取り換える。

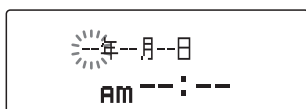
3 電池ケースを元に戻す。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。

時計を合わせる

本機の時計表示は、時計を合わせるまで「– –:– –」のままです。
時計を合わせておくと、MDに録音したとき、自動的に録音日時が記録されます。

1 西暦年の数字が点滅するまで、CLOCK/DELETEボタンを押したままにする。

西暦年の下2桁が点滅します。

2 年月日を合わせる。

① 数字／文字ボタンを押して「年」を合わせ、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押す。
「月」の数字が点滅します。

② 数字／文字ボタンを押して「月」を合わせ、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押す。
「日」の数字が点滅します。

③ 数字／文字ボタンを押して「日」を合わせ、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押す。
「時」と「分」の数字が点滅します。

3 時刻を合わせる。

① 数字／文字ボタンの>10 AM/PMボタンを押して「Am」か「Pm」を合わせる。

② 数字／文字ボタンを「時」「分」の順に押す。
例）8:45のときは、8→4→5の順に押します。

4 YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押す。

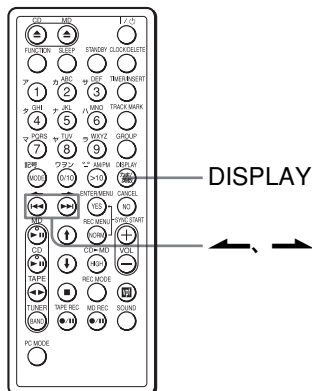
00秒から時計が動きます。

途中で間違えたときは

NO•CANCEL（本体ではCANCEL）ボタンを押します。
最後に設定した内容が消えますので、設定し直してください。

現在の日時を表示するには

停止中、再生中またはマニュアル録音（45、85ページ）中にCLOCK/DELETEボタンを押します。
元の表示に戻すには、もう1回押します。

ご注意

電源コードを抜くと時計の表示が「– –:– –」に戻る場合があります。その場合はもう一度時計を合わせ直してください。

ちょっと一言

- お買い上げ時は、12時間表示に設定されています。
  真夜中：「Am12:00」
  正午　：「Pm12:00」
- 24時間表示に切り換えるには、メニュー操作（49ページ）で「便利機能」–「時計表示設定」–「24時間表示」を選び、最後にYES•ENTER/MENUボタンを押して決定します。

表示窓のコントラストを調節する

表示窓のコントラストをお好みに合わせて調節できます。

1　電源を切った状態でDISPLAYボタンを約2秒間押す。

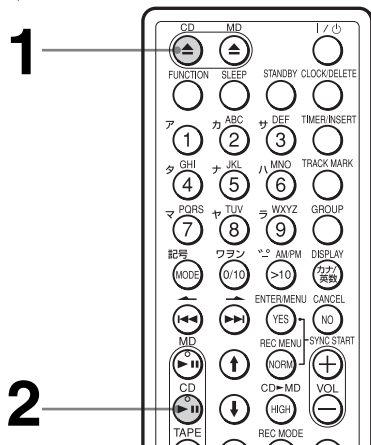
「Contrast 0」の表示が出ます。

2　←または→ボタンを押してコントラストを調節する。

コントラストの強弱を–7～+7の範囲で調節できます。

ご注意

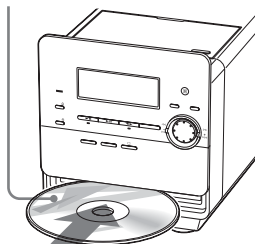
電源コードを抜くと表示窓のコントラストの数値が「0」に戻る場合があります。その場合はもう一度表示窓のコントラストを合わせ直してください。

CDを聞く

準備➡「接続する」(22、23ページ)をご覧ください。

1

CD⏏ボタンを押してCDを入れる。

ボタンを押すと自動的に電源が入り、フロントパネルが上がります。CDのラベル面(文字のある面)を上に向けて、スロットに差し込んでください。
CDを入れると、自動的にフロントパネルが下がります。

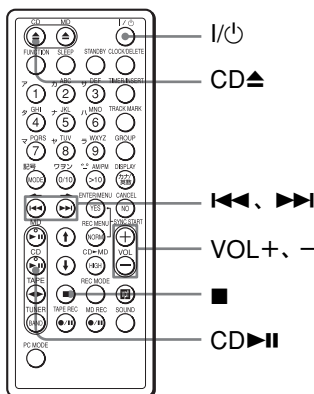
文字のある面を上に

2

CD►❚❚ボタンを押す。

再生が始まります。

表示窓
音楽CD

曲番　曲の再生経過時間

CD-TEXT CD再生時：
曲名、アーティスト名

ATRAC CD/MP3 CD

ATRACまたはMP3表示

曲番　曲の再生経過時間

ATRAC CD：曲名、アーティスト名
MP3 CD：ID3タグに曲名やアーティスト名が記録されていれば表示される。曲名が記録されていなければファイル名が表示される

その他の操作

こんなときは	押すボタン
音量を調節する	VOL（本体ではVOLUME）＋、－
再生を止める	■
再生中に一時停止する	CD▶❚❚ もう一度押すと再生が始まる。
曲の頭に戻す 前の曲へ戻す	⏮、短くポンと押す。
次の曲へ進む	⏭、短くポンと押す。
CDを取り出す*	CD⏏
電源を入/切する	I/⏻

* フロントパネルを開けると、次の再生は1曲目から始まります。

ATRAC CD/MP3 CDのグループを選ぶには

「聞きたいグループを選ぶ」（58ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機はCDを再生する前に、CDに記録されているグループとファイルの全情報を読み込みます。読み込み中は「Reading」が表示され、内容によっては読み込みに時間がかかる場合があります。
- ATRAC CD/MP3 CDなどたくさんの曲が入っているCDでは、各操作で情報の読み込みに時間がかかり、すぐに次の操作に進まない場合があります。
- 8cm CDを再生するときはアダプターを使わないでください。8cm CDを入れるときは、スロットの中央部に差し込んでください。
- CDを取り出すとき、CDの動作状態によっては時間がかかることがありますが、故障ではありません。
- ヘッドホンで聞くには、ヘッドホンを🎧端子につなぎます。
- 再生を止めても、次に再生するときに止めた続きから再生が始まるように設定できます（「止めた位置から聞く」59ページ）。

次のページへつづく

ご注意

- ATRAC3plusとMP3ファイルが混在したディスク、またはオーディオトラック（CDDA）やそれ以外のフォーマットのファイルが混在したディスクは、再生できない場合があります。
- ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によっては再生できない場合があります。

ATRAC CDについて

- ATRAC3plusファイルを書き込んだディスクは、パソコンのドライブでは再生できません。

MP3 CDについて

- MP3ファイルには、「mp3」の拡張子をつけてください。ただし、MP3以外のファイルに「mp3」の拡張子をつけると、そのファイルは正しく認識されません。
- 本機で再生できるビットレートは16〜320 kbps、サンプリング周波数は32/44.1/48 kHzです。また、可変ビットレート（VBR）にも対応しています。
- MP3ファイルに圧縮するとき、圧縮ソフトの設定は「44.1 kHz」、「128 kbps」の「固定」を推奨します。
- 最大容量まで記録する場合は、書き込みソフトで「追記禁止」の設定をしてください。
- 未使用のCD-R/CD-RWディスクに最大容量まで1回で記録する場合は、書き込みソフトで「Disc at Once」（ディスクアットワンス）の設定をしてください。

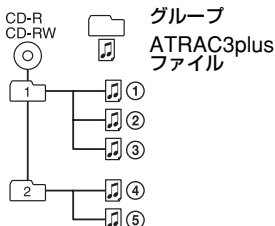
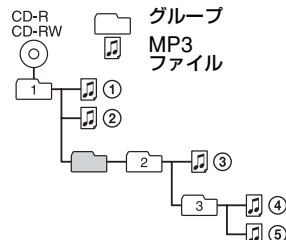
ATRAC3plusやMP3 CDのファイル構造

ATRAC3plusは、「グループ」と「ファイル」から成り立つ、非常に簡単な構造になっています。「ファイル」は音楽CDの「曲」に相当し、「グループ」はファイルを束ねたもので、音楽CDの「アルバム」に相当します。グループの中にグループを作ることはできません。
MP3ファイルが記録されたCDでも、「ファイル」は「曲」に、「アルバム」は「グループ」に相当します。本機では、MP3のフォルダも「グループ」と認識し、同じ操作で使用できます。

ATRAC3plusやMP3 CDの構造と再生順

ATRAC CDでは、SonicStageで選んだ曲順に再生されます。
MP3 CDでは、書き込みの方法によって再生の順番が異なる場合があります。また、MP3ファイルを含まないグループはとばして再生します。再生するMP3ファイルの順番を記載した「プレイリスト」も再生できます。下記MP3 CDの例では、①から⑤の順にファイルが再生されます。

•ATRAC3plus

CD-R
CD-RW
グループ
ATRAC3plus
ファイル
1
①
②
③
2
④
⑤

使用できるグループ数とファイル数

- 最大グループ数：255
- 最大ファイル数：999

•MP3

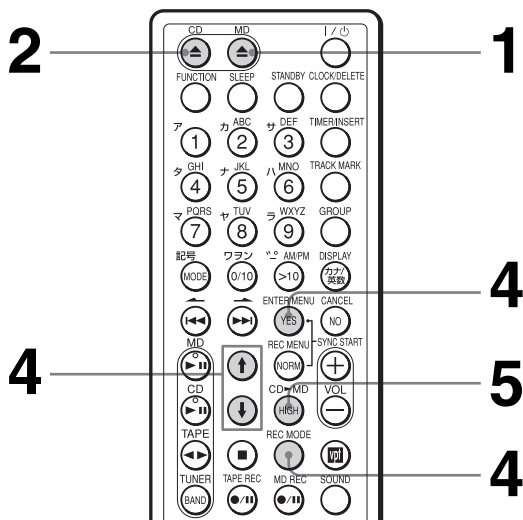
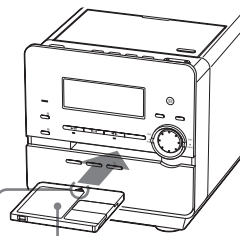
使用できるグループ数とファイル数

- 最大グループ数：512
- 最大ファイル数：9999
- 最大階層：8

ちょっと一言

- 本機では、グループ名とファイル名はATRAC CD／MP3 CDそれぞれ126文字まで表示できます。
- 本機で表示できるATRAC CD/MP3 CDの文字は英数字、記号（半角）、漢字、ひらがな、カタカナです。

CDをMDにまるごと録音する

（高速シンクロ録音）（CD-MDシンクロ録音）

準備➡「接続する」（22、23ページ）をご覧ください。

1

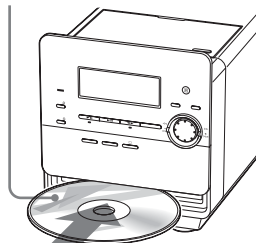
MD⏏ボタンを押して録音用MDを入れる。

ボタンを押すと自動的に電源が入り、フロントパネルが上がります。MDのラベル面を上に向けて、スロットに差し込んでください。

MDを入れると、自動的にフロントパネルが下がります。

2

CD⏏ボタンを押してCDを入れる。

フロントパネルが上がります。
CDのラベル面（文字のある面）を上に向けて、スロットに差し込んでください。
CDを入れると、自動的にフロントパネルが下がります。

次のページへつづく

3 MDの動作モードを確認する。

本機は「Hi-MD」と「MD」の2つの動作モードを持っています。動作モードは、挿入されたディスクによって自動的に切り換わります。動作モードがHi-MDモードの場合は表示窓にHi-MDが表示されます。

表示窓

Hi-MDモードのとき表示される

Hi-MD規格専用1GBディスクを入れた場合

自動的にHi-MDモードになります。

従来の60/74/80分ディスクを入れた場合

次のようになります。

ディスクの種類	動作モード
ブランクディスク	メニューの「ディスクモード」*の設定に従います。 お買い上げ時は「Hi-MD」に設定されています。 Hi-MDに対応していない他のMD機器でディスクをお使いになる場合は、「ディスクモード」の設定を「MD」に変更してください。
Hi-MDモードで録音されたものが入っているディスク	Hi-MDモード
MDモードで録音されたものが入っているディスク	MDモード

* ディスクモードの設定について詳しくは、「ディスクモードを選ぶ」（90ページ）をご覧ください。

4

REC MODE

ENTER/MENU

YES

MDの録音モードを選ぶ。

録音モードによって録音できる時間が異なります。以下の手順でお好みの録音モードを選びます。

表示されている録音モードで良い場合、この手順は必要ありません。

1 REC MODEボタンを押してメニュー画面にします。

表示窓

2 ↑または↓ボタンを押すか本体のジョグダイヤルを回して、「MD録音モード」を選び、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押して決定します。

3 同じようにして、お好みの録音モードを選び、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押して決定します。

設定した録音モードは、次に録音するときまで記憶されています。

Hi-MDモードでお使いのディスクに録音する場合

録音モード*1	メニュー（表示）	録音時間
リニアPCM ステレオ録音	PCM録音（PCM）	• 80分ディスクに約28分 • Hi-MD規格専用1GBディスクに約94分
Hi-SP ステレオ録音	Hi-SP録音（Hi-SP）	• 80分ディスクに約140分 • Hi-MD規格専用1GBディスクに約475分
Hi-LP ステレオ録音	Hi-LP録音（Hi-LP）	• 80分ディスクに約610分 • Hi-MD規格専用1GBディスクに約2,040分

*1 これらの各モードで録音した内容は、Hi-MD再生対応の機器でのみ再生できます。より高音質の録音を行いたい場合は、「PCM録音」、「Hi-SP録音」を選んでください。

MDモードでお使いのディスクに録音する場合

録音モード*2	メニュー（表示）	録音時間*3
ステレオ録音	SP録音（SP）	約80分
LP2ステレオ録音	LP2録音（LP2）	約160分
LP4ステレオ録音	LP4録音（LP4）	約320分

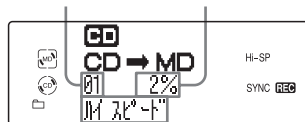
*2 ステレオ録音モード以外のモードで録音した内容は、MDLP再生対応の機器でのみ再生できます。より高音質の録音を行いたい場合は、「SP録音」、「LP2録音」を選んでください。

*3 80分ディスク使用時。

次のページへつづく

5

高速録音するには、CD►MD HIGH(本体ではHIGH SPEED REC)ボタンを押す。

自動的に録音が始まります。

すでに録音してあるMDを入れたときは、録音してある部分の後ろに録音されます。

高速録音中はスピーカーやヘッドホンから音は出ません。

録音が終わると、CD、MDとも自動的に停止します。

音楽を聞きながら通常の速度で録音するには

1 REC MENU NORMボタンを押してメニュー画面にします。

2 ⬆または⬇ボタンを押すか本体のジョグダイヤルを回して、「CD → MD」を選び、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押して決定します。
「録音開始して良いですか？」
「はい：ENTER　いいえ：CANCEL　を押してください」が表示されます。

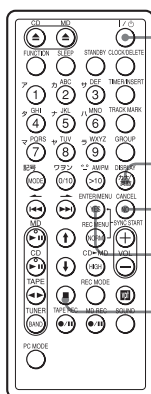
3 YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押して決定します。

ご注意

- **録音を止めたあと、「システムファイルの書込み中です」が点滅しているときは、電源コードを抜いたり、本機を動かしたりしないでください。**録音されないことがあります。
- 「PCM録音」、「Hi-SP録音」、「Hi-LP録音」、「LP2録音」、「LP4録音」で録音した内容は、それぞれに対応していない機器で再生・編集しようとすると「Hi-MD Disc」または「LP:」と表示され、再生・編集できません。
- 録音中に音量や音質を調節しても録音される音には影響ありません。ただし、音量が大きすぎると、音とびの原因となることがありますのでご注意ください。
- 「PCM録音」で録音した長時間の曲をディバイド（80ページ）またはコンバイン（80ページ）の編集をするときは、本機を使って編集することをおすすめします。パソコンに曲を転送し、パソコン上で編集する場合、非常に時間がかかることがあります。

ちょっと一言

- 通常の速度で録音しているときには、DISPLAYボタンを押すと、CDの曲番号、録音経過時間が表示されます。
- お買い上げ時は、常に新しいグループを作って録音するように設定されています。録音元のCDと同じところにMDの曲番（トラックマーク）がつき、録音が終わったところまでが１つのグループになります。グループを作らずに録音するには、「グループ録音オフ」に設定します（「新しいグループを作って録音する」68ページ）。

その他の操作

こんなときは	押すボタン
録音を途中で止める	■
電源を入/切する	I/⏻

「CD > MD」が表示されたら

MDの録音できる残り時間が足りません。

CDを最後まで録音できなくてもよいときは、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押します。録音をやめるときは、NO•CANCEL（本体ではCANCEL）ボタンを押します。

その他のメッセージが表示されたときは110～116ページをご覧ください。

録音途中でMDが終わってしまったときは

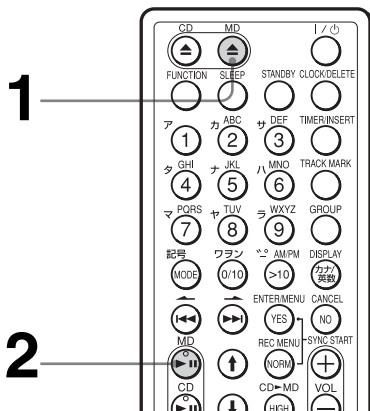
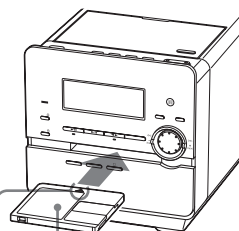
CD、MDとも自動的に停止します。

次のページへつづく

- 録音できるCDはオーディオトラック（CDDA）だけです。その他の音楽ソース（ATRAC3plus、ATRAC3、MP3など）や、それらが混在したディスクは録音できません。
- Hi-MD AUDIOまたはHi-MDロゴのある機器が「PCM」、「Hi-SP」、「Hi-LP」に対応しています。MDLPまたはMDLPロゴのある機器が「LP2」、「LP4」に対応しています。
- LP4ステレオ録音は、特殊な圧縮方式によって長時間ステレオ録音を実現しています。そのため、録音されるソースによってはごくまれに瞬間的なノイズが発生する恐れがあります。
- 時計を合わせてあると、録音日時が自動的にMDに記録されます（24ページ）。
- 録音中に曲名、グループ名をつけることができます。Hi-MDの場合はアーティスト名、アルバム名もつけられます（71～73ページ）。
- CD TEXT対応のCDでは、録音と同時にCDのディスク名や曲名、アーティスト名などの情報がMDに記録されます。
- MDに録音した曲を消去するには、「曲やグループを消す」（78ページ）をご覧ください。

高速録音についてのご注意

- 同じ曲を続けて高速録音することはできません（HCMS:ハイスピードコピーマネージメントシステム、123ページ）。高速録音した曲が直前の74分以内に録音されたものだった場合は、その曲は通常の速度で録音されます。そのとき、スピーカーやヘッドホンから音は出ません。
  1枚のCDの中に何曲か高速録音した曲がある場合は、その曲だけが通常の速度で録音されます。
- 高速録音開始後74分以内に電源を切り、5秒以内に電源コードをコンセントから抜いたりすると、次に電源コードをつないだときからさらに74分間は同じ曲でなくても高速録音することはできません。
- 高速録音中に曲の途中で録音が止まると、その曲は録音されません。
- 高速録音中に、CDの汚れや傷などにより高速録音にエラーが生じた場合は、自動的に速度を落として録音します。
- 曲と曲の間に切れ目なく音楽が入っているCDを、「Hi-SP録音」や「Hi-LP録音」で高速録音すると、曲間でノイズが入ることがあります。この場合は、通常の速度で録音してください。

MDを聞く

準備➡「接続する」(22、23ページ)をご覧ください。

1

MD⏏ボタンを押してMDを入れる。

ボタンを押すと自動的に電源が入り、フロントパネルが上がります。MDのラベル面を上に向けて、スロットに差し込んでください。

MDを入れると、自動的にフロントパネルが下がります。

2

MD►IIボタンを押す。

再生が始まります。

表示窓

動作モードがHi-MDモードのとき表示される

MD：曲名
Hi-MD：曲名またはアーティスト名が記録されているとき表示される

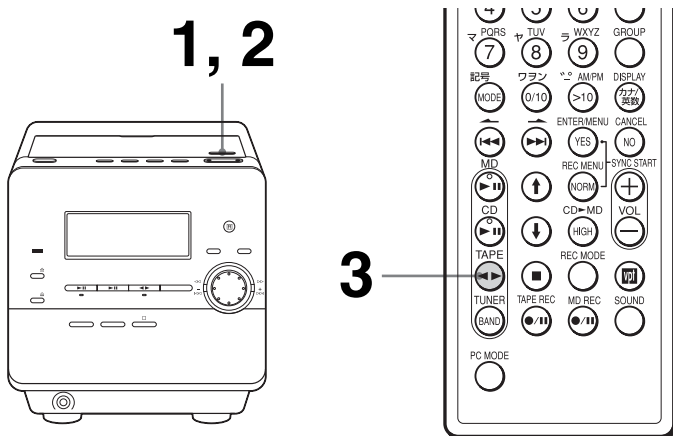
次のページへつづく

その他の操作

こんなときは	押すボタン
音量を調節する	VOL（本体ではVOLUME）＋、－
再生を止める	■
再生中に一時停止する	MD▶II もう一度押すと再生が始まる。
曲の頭に戻す 前の曲へ戻す	⏮、短くポンと押す。
次の曲へ進む	⏭、短くポンと押す。
MDを取り出す*	MD⏏
電源を入/切する	I/⏻

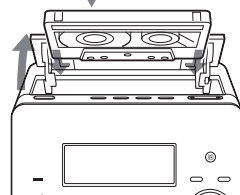
* フロントパネルを開けると、次の再生は1曲目から始まります。

ちょっと一言

- 本機はMDを再生する前に、MDに記録されている情報を読み込みます。読み込み中は「Reading」が表示され、内容によって読み込みに時間がかかる場合があります。
- 録音された方法により、PCM再生／Hi-SP再生／Hi-LP再生／SP再生／LP2再生／LP4再生は自動的に切り換わります（31ページ）。
- ヘッドホンで聞くには、ヘッドホンを🎧端子につなぎます。
- 再生を止めても、次に再生するときに止めた続きから再生が始まるように設定できます（「止めた位置から聞く」59ページ）。

グループ機能とは

複数の曲をまとめた状態が「グループ」です。お好きな曲を集めてグループを作っておけば、聞きたい曲を素早く探せます（「聞きたいグループを選ぶ」58ページ）。
本機は、グループ単位で録音したり（68ページ）、録音後に編集操作でグループを作る機能があります（74ページ）。
グループの構造について詳しくは、70ページをご覧ください。

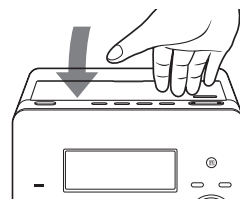
テープを聞く

準備➡「接続する」(22、23ページ)をご覧ください。

1

≜PUSH OPENを押してカセットぶたを開け、テープを入れる。

TYPE I(ノーマル)テープをお使いください。

聞きたい面を上に

2

≜PUSH OPENを押してカセットぶたを閉める。

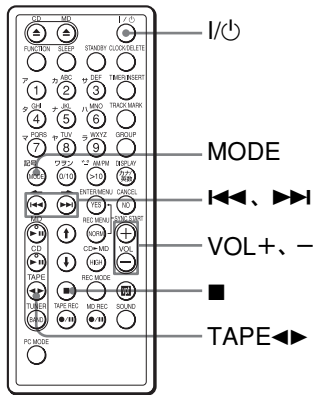
3

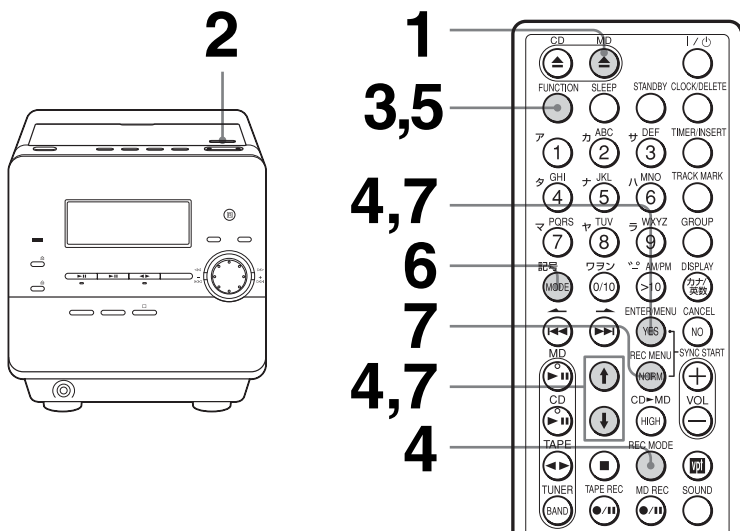
TAPE◄►ボタンを押す。

自動的に電源が入り、再生が始まります。

表示窓

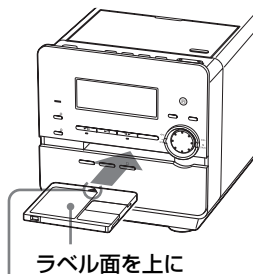
走行面が表示される

►：上の面
◄：下の面

次のページへつづく

その他の操作

こんなときは	押すボタン
音量を調節する	VOL（本体ではVOLUME）+、−
再生を止める	■
反対面を再生する	再生中にTAPE◀▶
早送りや早戻しをする	⏮または⏭（本体では◀◀または▶▶）
テープを取り出す	⏏PUSH OPEN
電源を入/切する	I/⏻

走行の方法（ディレクションモード）を選ぶには

リモコンのMODEボタンを押すたびに、下のように切り換わります。

	表示窓
片面だけ再生する	⇄
両面を再生する	⇄⊃
両面を繰り返して再生する	⊂⇄⊃

ちょっと一言

カセットぶたを開けると、走行方向は常に▶向きになります。

テープをMDにまるごと録音する
（TAPE-MDシンクロ録音）

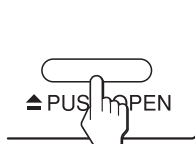
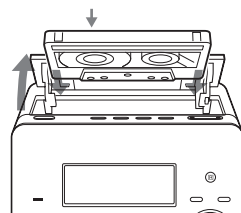
準備➡「接続する」（22、23ページ）をご覧ください。

1

MD⏏ボタンを押して録音用MDを入れる。

ボタンを押すと自動的に電源が入り、フロントパネルが上がります。MDのラベル面を上に向けて、スロットに差し込んでください。

MDを入れると、自動的にフロントパネルが下がります。

2

⏏PUSH OPENを押してカセットぶたを開け、テープを入れる。

TYPE I（ノーマル）テープをお使いください。
閉めるときも⏏PUSH OPENを押します。

次のページへつづく

3

FUNCTIONボタンを繰り返し押して「MD」を表示させ、表示窓でMDの動作モードを確認をする。

詳しくは、30ページの手順3をご覧ください。

4

ENTER/MENU

YES

MDの録音モードを選ぶ。

1 REC MODEボタンを押してメニュー画面にします。

表示窓

2 ↑または↓ボタンを押すか本体のジョグダイヤルを回して、「MD録音モード」を選び、YES•ENTER/MENU(本体ではENTER)ボタンを押して決定します。

3 同じようにして、お好みの録音モードを選び、YES•ENTER/MENU(本体ではENTER)ボタンを押して決定します。

MDの「録音モード」の種類について詳しくは、31ページの手順4をご覧ください。

5

FUNCTIONボタンを繰り返し押して「TAPE」を表示させる。

6

MODEボタンを押して、テープのディレクションモードを選ぶ。

⇄:片面を再生するとき

⇄)((⇄)):両面を再生するとき

7

録音を始める。

表示窓

1 REC MENU NORMボタンを押してメニュー画面にします。
2 ⬆または⬇ボタンを押すか本体のジョグダイヤルを回して、「TAPE → MD」を選び、YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押して決定します。
「録音開始して良いですか？」
「はい：ENTER　いいえ：CANCEL　を押してください」が表示されます。
3 YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押して決定します。

自動的に録音が始まります。

表示窓

すでに録音してあるMDを入れたときは、録音してある部分の後ろに録音されます。

録音を終えると、テープ、MDとも自動的に停止します。

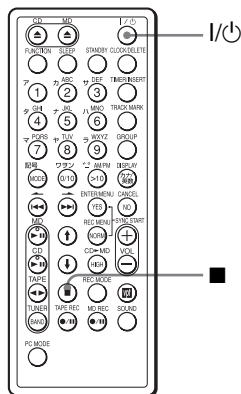
次のページへつづく

ご注意

- **録音を止めたあと、「システムファイルの書込み中です」が点滅しているときは、電源コードを抜いたり、本機を動かしたりしないでください。**録音されないことがあります。
- 「PCM録音」、「Hi-SP録音」、「Hi-LP録音」、「LP2録音」、「LP4録音」で録音した内容は、それぞれに対応していない機器で再生・編集しようとすると「Hi-MD Disc」または「LP:」と表示され、再生・編集できません。
- 録音中に音量や音質を調節しても録音される曲には影響ありません。ただし、音量が大きすぎると、音とびの原因となることがありますのでご注意ください。

ちょっと一言

- お買い上げ時は、常に新しいグループを作って録音するように設定されています。録音開始時にMDの曲番（トラックマーク）がつき、録音が終わったところまでが1つのグループになります。グループを作らずに録音するには、「グループ録音オフ」に設定します（「新しいグループを作って録音する」68ページ）。
- 録音中に曲名、グループ名をつけることができます。Hi-MDの場合はアーティスト名、アルバム名もつけられます（71～73ページ）。
- 時計を合わせてあると、録音日時が自動的にMDに記録されます（24ページ）。
- MDに録音した曲を消去するには、「曲やグループを消す」（78ページ）をご覧ください。

その他の操作

こんなときは	押すボタン
録音を途中で止める	■
電源を入/切する	I/⏻

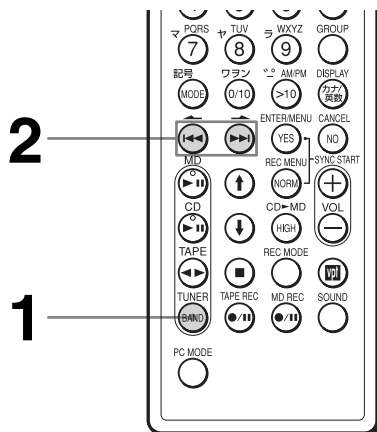
「ディスク容量が一杯です」が表示されたら

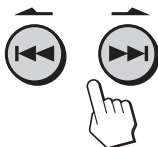
ディスクの空き容量が不足しているため、これ以上録音できません。

その他のメッセージが表示されたときは110～116ページをご覧ください。

録音途中でMDが終わってしまったときは

MD、テープとも自動的に停止します。

ラジオを聞く

準備➡「接続する」(22、23ページ)をご覧ください。

1

TUNER BANDボタンを押して「FM(TV)」、または「AM」を選ぶ。

ボタンを押すと自動的に電源が入り、「FM(TV)」または「AM」が出ます。切り換えるときは、もう一度押します。

表示窓

TUNER　SP

FM 76.0 MHz

2

◀━または━▶(本体ではTUNE＋または－)ボタンを押したままにし、数字が動き始めたら指を離す。

放送局を自動的に受信して止まります。聞きたい放送局を受信するまでこの操作を繰り返すか、自動で受信できなかったときは、◀━または━▶(本体ではTUNE＋または－)ボタンを繰り返し押して、聞きたい局の周波数に合わせます。

表示窓

FMステレオ受信のとき表示される

TUNER　ST　SP

FM 81.3 MHz

次のページへつづく

その他の操作

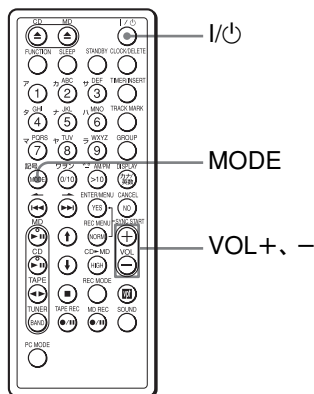
こんなときは	押すボタン
音量を調節する	VOL(本体ではVOLUME)+、−
電源を入/切する	I/⏻

受信状態をよくする

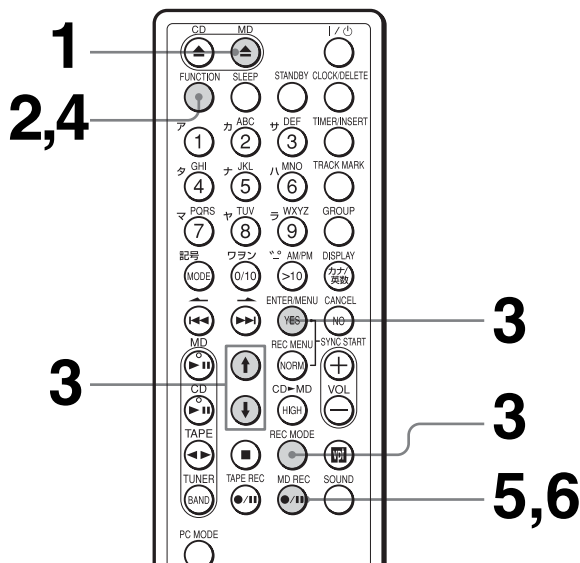
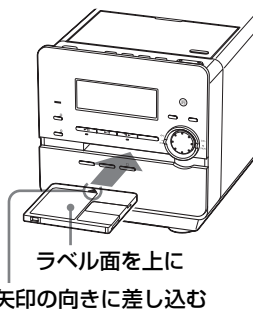
FM(TV1〜3ch)放送のとき

アンテナを窓の近くなど受信状態のよい場所に、できるだけ水平にまっすぐ伸ばす(22ページ)。

AM放送のとき

ループアンテナの向きを変えて、最も受信状態の良い方向へ向ける(22ページ)。

ちょっと一言

- 本機は、FMは76.0〜90.0 MHz(TVは1ch〜3ch)、AMは531〜1,629 kHzの範囲で切り換わります。
- 本機では、FMステレオ放送のみステレオで聞くことができます。AM、TV1〜3chのステレオ放送はモノラルになります。
- FMステレオ放送の雑音が多いときは、MODEボタンを繰り返し押して、表示窓に「モノラル受信」を表示させます。音はモノラルになります。
- モノラル受信中は、表示窓に「MONO」と表示されます。
- よく聞く放送局は、あらかじめ記憶させておくと便利です(プリセット)。プリセットについて、詳しくは87ページをご覧ください。

ラジオ・CD・テープなどをMDに録音する（マニュアル録音）

準備➡「接続する」（22、23ページ）をご覧ください。

1

MD⏏ボタンを押して録音用MDを入れる。

ボタンを押すと自動的に電源が入り、フロントパネルが上がります。MDのラベル面を上に向けて、スロットに差し込んでください。

MDを入れると、自動的にフロントパネルが下がります。

次のページへつづく

2

FUNCTIONボタンを繰り返し押して「MD」を表示させ、表示窓でMDの動作モードを確認をする。

詳しくは、30ページの手順3をご覧ください。

3

MDの録音モードを選ぶ。

1 REC MODEボタンを押してメニュー画面にします。

表示窓

2 ⬆または⬇ボタンを押すか本体のジョグダイヤルを回して、「MD録音モード」を選び、YES•ENTER/MENU(本体ではENTER)ボタンを押して決定します。
3 同じようにして、お好みの録音モードを選び、YES•ENTER/MENU(本体ではENTER)ボタンを押して決定します。

MDの「録音モード」の種類について詳しくは、31ページの手順4をご覧ください。

4

FUNCTIONボタンを繰り返し押して、「CD」など録音したい音源を表示させる。

- CD:本機のCDの音を録音する
  録音を始めたいところで一時停止にしておきます。
- TAPE:本機のテープの音を録音する
  録音を始めたいところで停止しておきます。
- TUNER:本機のラジオの音を録音する
  録音したい放送局を受信します。
- LINE:本機のLINE IN端子につないだ機器から録音する
  つないだ機器を再生できる状態にしておきます。

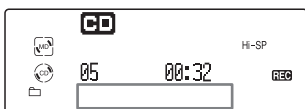
5

MD REC ●/❚❚ボタンを押す。

「REC」表示が点滅し、MDが一時停止状態になります。

6

録音を始める。

表示窓

ラジオを録音するとき：
MD REC ●/❚❚ボタンを押す。

CDを録音するとき：
MD REC ●/❚❚ボタンを押してすぐにCD▶❚❚ボタンを押す。

CD-TEXT CD時：
曲名、アーティスト名

テープを録音するとき：
MD REC ●/❚❚ボタンを押してすぐにTAPE◀▶ボタンを押す。

つないだ機器の音を録音するとき：MD REC ●/❚❚ボタンを押してすぐに機器を再生状態にする。

録音が始まります。

すでに録音してあるMDを入れたときは、録音してある部分の後ろに録音されます。

録音が終わったところまでが１つのグループになります（お買い上げ時の設定）。

CDを録音している場合、CDの再生が終わると録音も止まります。それ以外の音源を録音している場合、録音は止めるまで続きます。

次のページへつづく

ちょっと一言

- **録音を止めたあと、「システムファイルの書き込み中です」が点滅しているときは、電源コードを抜いたり、本機を動かしたりしないでください。**録音されないことがあります。
- 「PCM録音」、「Hi-SP録音」、「Hi-LP録音」、「LP2録音」、「LP4録音」で録音した内容は、それぞれに対応していない機器で再生・編集しようとすると「Hi-MD Disc」または「LP:」と表示され、再生・編集できません。
- 時計を合わせてあると、録音日時が自動的に記録されます（24ページ）。
- 録音中に曲名、グループ名をつけることができます。Hi-MDの場合はアーティスト名、アルバム名もつけられます（71～73ページ）。
- お買い上げ時は、LINEからの音源に2秒以上の無音部分が続くときは、自動的に連続した曲番（トラックマーク）がMDにつくように設定されています。設定を解除するには、「無音部分に自動でトラックマークをつける」（69ページ）をご覧ください。
- MDに録音した曲を消去するには、「曲やグループを消す」（78ページ）をご覧ください。

その他の操作

こんなときは	押すボタン
録音を一時停止する*	MD REC ●/❚❚
録音を止める	■
曲番(トラックマーク)をつける	TRACK MARK
電源を入/切する	I/⏻

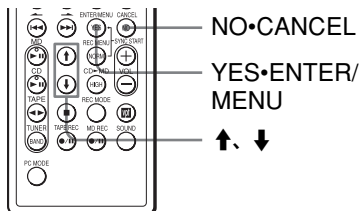
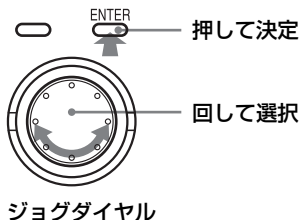
* 録音を再開するときは、もう一度押します。自動的に新しいトラックマークがつきます。

録音途中でMDが終わってしまったときは

MDは自動的に停止します。

メニュー操作のしかた

本機では、録音や再生、編集に便利な機能をメニューを使って操作します。メニューの操作は下記の手順で行います。

リモコン

本 体

1 電源を入れる。

2 YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを2秒以上押す。

メニュー項目が表示されます。

（例）ファンクションがMDの場合

3 リモコンの⬆または⬇ボタンを押すか本体のジョグダイヤルを回して、項目を選択する。

選ばれている項目が点滅します。

4 YES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押して、項目を決定する。

5 表示にしたがって、手順3と4を繰り返す。

最後にYES•ENTER/MENU（本体ではENTER）ボタンを押した時点で設定が確定します。

1つ前の段階に戻すには

NO•CANCEL（本体ではCANCEL）ボタンを押す。

途中で中止するときは

NO•CANCEL（本体ではCANCEL）ボタンを2秒以上押す。

リモコンで⬆または⬇ボタンを押す操作は、本体ではジョグダイヤルを回します。
リモコンでYES•ENTER/MENUボタンを押す操作は、本体ではENTERボタンを押します。
リモコンでNO•CANCELボタンを押す操作は、本体ではCANCELボタンを押します。
このあとのページでは、リモコン操作で説明します。

メニュー一覧

設定できるメニュー項目は以下のとおりです。
「表示言語」を「英語」に設定するとメニュー表示は英語になります（90ページ）。

ご注意

表示される項目は、操作状況やディスクの設定により異なります。

FUNCTIONボタンで「MD」を表示させた場合

第一階層	第二階層	機能	参照ページ
編集／ Edit	タイトル入力／ Title Input	曲名、グループ名、アーティスト名*1、 アルバム名*1、ディスク名をつける	71
	グループ設定／ Group Set	グループを設定する	74
	グループ解除／ Group Release	グループを解除する	75
	移動／Move	曲やグループの順番を変える	76
	消去／Erase	曲やグループを消す	78
	初期化*1／Format	ディスクをお買い上げ時の状態に戻す	81
表示／ Display	経過時間／ Lap Time	再生時間を表示する	55
	1曲残り時間／ 1 Remain	再生中の曲の残り時間を表示する	55
	再生残り時間／ All Remain	再生の残り時間を表示する	55
	タイトル表示1/2／ Title 1/2	曲名、グループ名、アーティスト名*1、 アルバム名*1、ディスク名を表示する	55
	録音残り時間／ REC Remain	録音の残り時間を表示する	55
	録音日時／ REC Date	録音した日時を表示する	55
	録音再生形式／ Codec*1 録音再生形式／ Track Mode*2	再生中の曲の録音再生形式を表示する	55
便利機能／ Useful	曲検索／Search	曲名、グループ、アーティスト*1、 アルバム*1を検索する	65
	時計表示設定／ CLOCK Display	12時間表示／24時間表示を設定する	24

第一階層	第二階層	機能	参照ページ
シンクロ録音モード／Synchro REC Mode	CD→MD	CDからMDにシンクロ録音する	29
	CD→TAPE	CDからテープにシンクロ録音する	83、84
	MD→TAPE	MDからテープにシンクロ録音する	83、84
	TAPE→MD	テープからMDにシンクロ録音する	39
タイマー設定／TIMER	タイマー再生／TIMER Play	タイマー再生をするための設定をする	93
	タイマー録音／TIMER REC	タイマー録音をするための設定をする	94
スリープ設定／SLEEP		スリープ機能の設定をする	96
サウンド設定／SOUND	プリセットイコライザ／PRESET EQ	音質（ロック、ポップ、ジャズ、ボーカル、クラシック）の設定をする。	91
	VPT／VPT	VPT効果（SURROUND、WIDE、OFF）の設定をする	92
各種設定／Option	時計設定／CLOCK	時計を合わせる	24
	バックライト設定／Backlight	表示窓のバックライトの点灯／消灯を設定する	89
	ディスクモード／Disc Mode	ディスクモード（Hi-MDまたはMD）の設定を記録する	89
	リジューム／Resume	リジューム機能のオン／オフを設定する	59
	表示言語／Language	表示する言語（日本語／英語）を設定する	90
	表示方式選択*2／JP Character	パソコンで入力したタイトルの表示方式（漢字優先／漢字カナ交互）を設定する	91
	リニアフェーズ／Linear Phase	スピーカー音質を設定する	92

*1 Hi-MDモードで録音されたディスクが入っているときに表示されます。

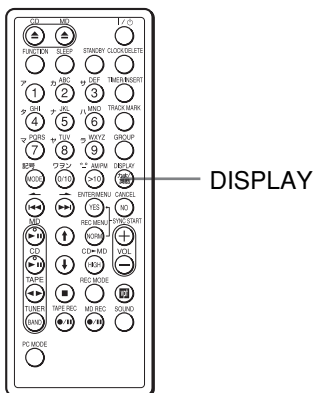
*2 MDモードで録音されたディスクが入っているときに表示されます。

次のページへつづく

FUNCTIONボタンで「CD」を表示させた場合

第一階層	第二階層	機能	参照ページ
表示／Display	経過時間／Lap Time	再生時間を表示する	54
	1曲残り時間／1 Remain	再生中の曲の残り時間を表示する	54
	再生残り時間／All Remain	再生の残り時間を表示する	54
	タイトル表示1/2*[1]／Title 1/2	曲名、グループ名*[2]、アーティスト名、アルバム名、ディスク名を表示する	54
便利機能／Useful	時計表示設定／CLOCK Display	12時間表示／24時間表示を設定する	24
シンクロ録音モード／Synchro REC Mode	CD→MD	CDからMDにシンクロ録音する	29
	CD→TAPE	CDからテープにシンクロ録音する	83、84
	MD→TAPE	MDからテープにシンクロ録音する	83、84
	TAPE→MD	テープからMDにシンクロ録音する	39
タイマー設定／TIMER	タイマー再生／TIMER Play	タイマー再生をするための設定をする	93
	タイマー録音／TIMER REC	タイマー録音をするための設定をする	94
スリープ設定／SLEEP		スリープ機能の設定をする	96
サウンド設定／SOUND	プリセットイコライザ／PRESET EQ	音質（ロック、ポップ、ジャズ、ボーカル、クラシック）の設定をする。	91
	VPT／VPT	VPT効果（SURROUND、WIDE、OFF）の設定をする	92
各種設定／Option	時計設定／CLOCK	時計を合わせる	24
	バックライト設定／Backlight	表示窓のバックライトの点灯／消灯を設定する	89
	ディスクモード／Disc Mode	ディスクモード（Hi-MDまたはMD）の設定を記録する	89
	リジューム／Resume	リジューム機能のオン／オフを設定する	59
	表示言語／Language	表示する言語（日本語／英語）を設定する	90
	表示方式選択*[3]／JP Character	パソコンで入力したタイトルの表示方式（漢字優先／漢字カナ交互）を設定する	91
	リニアフェーズ／Linear Phase	スピーカー音質を設定する	92

*[1] CD-TEXT、CD、ATRAC CD、MP3CDの場合に表示されます。
*[2] ATRAC CD/MP3 CDの場合に表示されます。
*[3] MDモードで録音されたディスクが入っているときに表示されます。

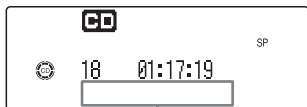
FUNCTIONボタンで「TAPE」、「TUNER」または「LINE」を表示させた場合

第一階層	第二階層	機能	参照ページ
放送局名入力*1／Radio Edit		プリセットされている放送局を受信中に放送局名をつける	88
便利機能／Useful	時計表示設定／CLOCK Display	12時間表示／24時間表示を設定する	24
シンクロ録音モード／Synchro REC Mode	CD→MD	CDからMDにシンクロ録音する	29
	CD→TAPE	CDからテープにシンクロ録音する	83、84
	MD→TAPE	MDからテープにシンクロ録音する	83、84
	TAPE→MD	テープからMDにシンクロ録音する	39
タイマー設定／TIMER	タイマー再生／TIMER Play	タイマー再生をするための設定をする	93
	タイマー録音／TIMER REC	タイマー録音をするための設定をする	94
スリープ設定／SLEEP		スリープ機能の設定をする	96
サウンド設定／SOUND	プリセットイコライザ／PRESET EQ	音質（ロック、ポップ、ジャズ、ボーカル、クラシック）の設定をする。	91
	VPT／VPT	VPT効果（SURROUND、WIDE、OFF）の設定をする	92
各種設定／Option	時計設定／CLOCK	時計を合わせる	24
	バックライト設定／Backlight	表示窓のバックライトの点灯／消灯を設定する	89
	ディスクモード／Disc Mode	ディスクモード（Hi-MDまたはMD）の設定を記録する	89
	表示言語／Language	表示する言語（日本語／英語）を設定する	90
	表示方式選択*2／JP Character	パソコンで入力したタイトルの表示方式（漢字優先／漢字カナ交互）を設定する	91
	リニアフェーズ／Linear Phase	スピーカー音質を設定する	92

*1 FUNCTIONボタンで「TUNER」を選んだ場合に表示されます。

*2 MDモードで録音されたディスクが入っているときに表示されます。

メニュー操作

表示窓の見かた

DISPLAYボタンを繰り返し押して、CDまたはMDの情報を確認することができます。

ご注意

CDまたはMDの動作状態、グループの設定状況により、表示が異なることがあります。

CD停止中

全曲数と全再生時間が表示されます。
CD-TEXT CDやATRAC CD、MP3 CDの場合は、ディスク名も表示されます。

CD-TEXT CD/
ATRAC CD/
MP3 CDの場合、
ディスク名が表示される

CD再生中

DISPLAYボタンを押すたびに、次のように表示が変わります。
MDへのマニュアル録音中も、同じ情報を確認できます。

音楽CDの場合

→ 再生中の曲番と再生経過時間
(曲名/アーティスト名) *[1]
↓
再生中の曲番と1曲残り時間
(曲名/アーティスト名) *[1]
↓
残りの曲数と再生残り時間*[2]
(ディスク名) *[1]

*[1]CD-TEXTなど文字情報が入っているときに表示されます。さらにDISPLAYボタンを押すと、アーティスト名やアルバム名などの情報も表示されます。
*[2]メイン再生モードが「通常再生」で、サブ再生モードが「通常再生」または「1トラック再生」のときに表示されます。

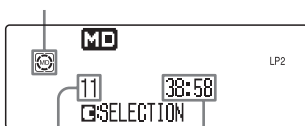
ご注意

リピート再生のときは、残りの曲数は表示されません。

ATRAC CD/MP3 CDの場合

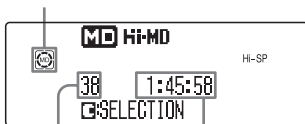
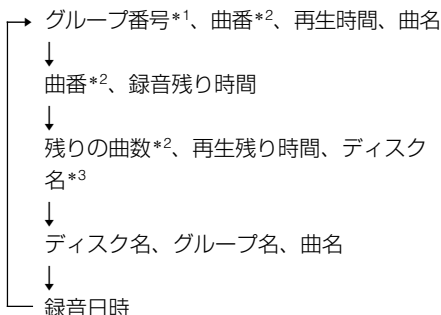
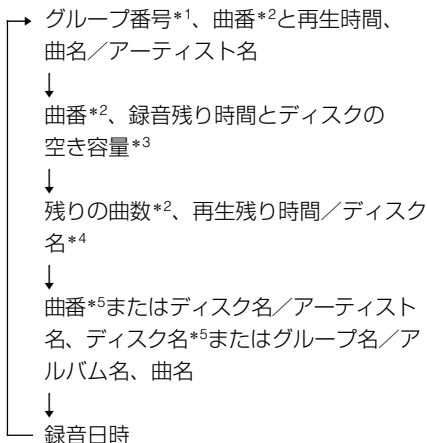
ATRAC CDではSonicStageで入力した情報が表示されます。ID3タグ*[1]入りのMP3 CDではID3タグの情報が表示されます。

→ グループ番号*[2]、ファイル番号*[3]、
現在の再生時間、
曲名/アーティスト名*[4]
↓
ファイル番号*[3]、1曲残り時間、
曲名/アーティスト名
↓
残りの曲数*[3]、再生残り時間*[5]、ディスク名
↓
ディスク名/アーティスト名、
グループ名/アルバム名、曲名

*1 ID3タグとは、曲名、アルバム名、アーティスト名などの情報をMP3ファイルに追加するフォーマットのことです。本機はバージョン1.0/1.1/2.2/2.3に対応しています。
それ以外のバージョンをご使用になると、ID3タグの情報が正しく表示されません。バージョン2.2/2.3はunsynchronized、compressed、encrypted形式には対応していません。
*2 メイン再生モードが「通常再生」、「グループ再生」、「グループプログラム再生」のときに表示されます。メイン再生モードが「プレイリスト再生」のときはプレイリスト番号が表示されます。
*3「通常再生」以外のメイン再生モードが選ばれているときは、メイン再生モードのマークも表示されます。
*4 ID3タグが入っていない場合は曲名のかわりにファイル名を表示します。
*5 MP3ファイルを再生中は、「－－－：－－」と表示されます。

ご注意
リピート再生（64ページ）のときは、「残りの曲数と再生残り時間」は表示されません。

MD停止中

ディスク名と全曲数、全再生時間が表示されます。

MDの場合

Hi-MDの場合

DISPLAYボタンを押すたびに、次のように表示が変わります。

MDの場合

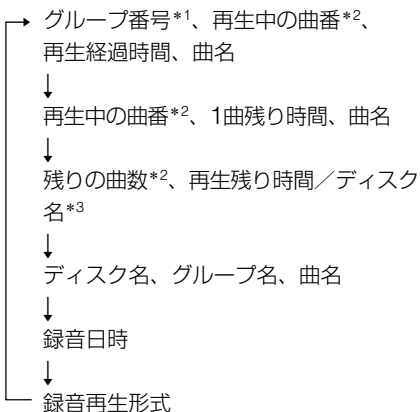
→ グループ番号*1、曲番*2、再生時間、曲名
↓
曲番*2、録音残り時間
↓
残りの曲数*2、再生残り時間、ディスク名*3
↓
ディスク名、グループ名、曲名
↓
録音日時

Hi-MDの場合

→ グループ番号*1、曲番*2と再生時間、曲名／アーティスト名
↓
曲番*2、録音残り時間とディスクの空き容量*3
↓
残りの曲数*2、再生残り時間／ディスク名*4
↓
曲番*5またはディスク名／アーティスト名、ディスク名*5またはグループ名／アルバム名、曲名
↓
録音日時

*1 グループ設定されている曲が選ばれているときに表示されます。選ばれているメイン再生モードによっては、表示されません。
*2 通常再生以外のメイン再生モードが選ばれているときは、メイン再生モードのマークも表示されます。
*3 Hi-MDモードでお使いの場合、録音残り時間が「00：00」のとき、ディスクの空き容量は「2.0MB」と表示されます。これはシステム上の制約で2.0MBは予備領域の容量です。
*4 選ばれているメイン再生モードによって表示が異なります。
*5 グループ設定されていない曲が選ばれているときに表示されます。

次のページへつづく

表示窓の見かた（つづき）

ちょっと一言

曲名、ディスク名、グループ名、アルバム名、アーティスト名が表示されるのは、MDにそれぞれが記録されているときのみです。記録されていないときは表示されません。

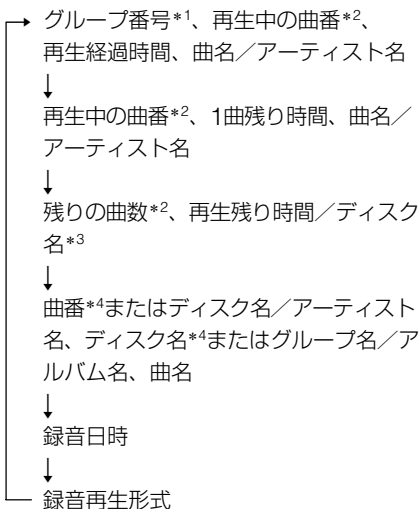
MD再生中

DISPLAYボタンを押すたびに、次のように表示が変わります。

MDの場合

→ グループ番号*[1]、再生中の曲番*[2]、再生経過時間、曲名
↓
再生中の曲番*[2]、1曲残り時間、曲名
↓
残りの曲数*[2]、再生残り時間／ディスク名*[3]
↓
ディスク名、グループ名、曲名
↓
録音日時
↓
録音再生形式

Hi-MDの場合

→ グループ番号*[1]、再生中の曲番*[2]、再生経過時間、曲名／アーティスト名
↓
再生中の曲番*[2]、1曲残り時間、曲名／アーティスト名
↓
残りの曲数*[2]、再生残り時間／ディスク名*[3]
↓
曲番*[4]またはディスク名／アーティスト名、ディスク名*[4]またはグループ名／アルバム名、曲名
↓
録音日時
↓
録音再生形式

*[1] グループ設定されている曲が選ばれているときに表示されます。選ばれているメイン再生モードによっては、表示されません。
*[2] 通常再生以外のメイン再生モードが選ばれているときは、メイン再生モードのマークも表示されます。
*[3] 選ばれているメイン再生モードによって表示が異なります。
*[4] グループ設定されていない曲が選ばれているときに表示されます。

ちょっと一言

曲名、ディスク名、グループ名、アルバム名、アーティスト名が表示されるのは、MDにそれぞれが記録されているときのみです。記録されていないときは表示されません。

ご注意

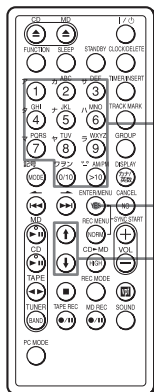
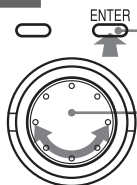
リピート再生（64ページ）のときは、「残りの曲数と再生残り時間」は表示されません。

聞きたい曲を選ぶ

（ダイレクト選曲）

CDまたはMDの聞きたい曲を選んで、すぐに再生を始めることができます。

リモコン

本 体

表示窓を見ながら操作する

1 ↑または↓ボタンを押す。

グループまたは曲の一覧が表示されます。点滅しているグループまたは曲が選ばれています。

2 別のグループの曲を選ぶときは↑または↓ボタンで聞きたい曲を含むグループを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

選んだグループの曲の一覧が表示されます。グループに属していない曲を選ぶ場合は、この手順は必要ありません。

3 ↑または↓ボタンを押して聞きたい曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

選んだ曲の再生が始まります。

ちょっと一言

グループが設定されていないCDやMDでは、GROUPボタンを押してから⏮または⏭ボタンを押すと、10曲前または10曲後の曲に移動できます。

ご注意

- 選ばれているメイン再生モード（60ページ）によっては、表示される内容に制限があります。
- ↑または↓ボタンやジョグダイヤルを使ってダイレクト選曲をした場合、「シャッフル再生」（64ページ）は解除されます。

数字ボタンで操作する

グループに分かれているときは、選ばれているグループの中の曲だけが選べます。

曲番の数字／文字ボタンを押す。

選んだ曲の再生が始まります。

ご注意

「通常再生」、「グループ再生」、「プレイリスト再生」以外のメイン再生モード（60ページ）が選ばれているときは、数字／文字ボタンでダイレクト選曲できません。

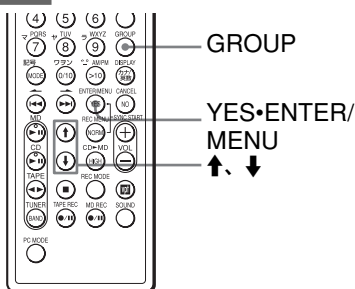
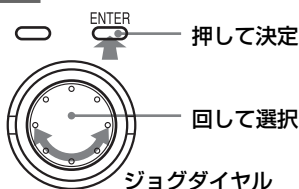
ちょっと一言

- 10曲目以降の曲を選ぶには、＞10ボタンを押したあと10の位の数、1の位の数という順に数字／文字ボタン（1～0）を押します。
  例：23曲目を選ぶときは、＞10→2→3の順に押します。
  10曲目は0/10ボタンで選ぶこともできます。
- 100曲目以降の曲を選ぶには、＞10ボタンを2回押したあと100の位の数、10の位の数、1の位の数という順に数字／文字ボタンを押します。
- 1,000曲目以降の曲を選ぶには、＞10ボタンを3回押したあと1,000の位の数、100の位の数、10の位の数、1の位の数という順に数字／文字ボタンを押します。

聞きたいグループを選ぶ*（グループダイレクト選曲）*

グループの一覧のみを表示するので、曲がたくさん入っているATRAC CD/MP3 CDやMDで聞きたい曲を素早く探せます。

リモコン

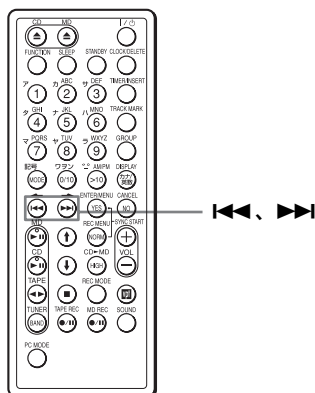
本体

1 **GROUPボタンを押す。**

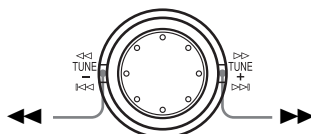
「🗀」が点滅します。

2 **↑または↓ボタンを押してグループを選ぶ。**

グループの一覧が表示されます。

3 **YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

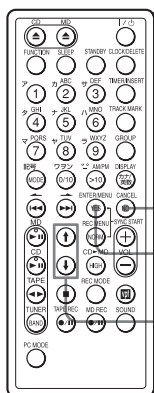
選んだグループの曲から再生が始まります。

ちょっと一言

- 選んだグループの曲のみを再生することもできます（「グループの曲を聞く」61ページ）
- 「Group – –」は、グループに属さない曲です。
- MDのグループ設定について詳しくは、「グループを作る」（74ページ）をご覧ください。

聞きたい部分を探す

（サーチ）

⏮、⏭ボタンで曲の中の聞きたい部分を探すことができます。

リモコン

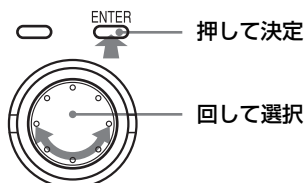
本体

探しかた	操作のしかた
聞きながら探す（サーチ）	再生中に⏮、⏭（本体では◀◀、▶▶）ボタンを押したままにする。指を離すと、そこから再生されます。
表示窓の再生時間を見ながら探す（高速サーチ）	一時停止中に⏮、⏭（本体では◀◀、▶▶）ボタンを押したままにする。指を離すと、その位置で一時停止になります。

止めた位置から聞く

（リジューム再生）

CDまたはMDの再生を一度止めても、次に再生するときに止めた続きから再生が始まるように設定できます。

リモコン

本 体

1 メニュー操作（49ページ）で「各種設定」－「リジューム」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して「リジュームオン」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

表示窓に「R」が表示されます。停止中は表示窓に再生が始まる曲番とその演奏時間が表示されます。

CDまたはMDの先頭から再生するには

CD▶II（またはMD▶II）ボタンを押し続けます。

リジューム再生を解除するには

手順2で「リジュームオフ」を選びます。

いろいろな再生モードを楽しむ

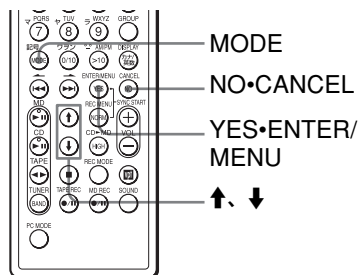
メイン再生モード、サブ再生モード、リピート再生、の3つの再生モードを組み合わせて、いろいろな方法で曲を聞くことができます。
例えば、お気に入りの1曲を繰り返し聞くときは、メイン再生モードを「通常再生」、サブ再生モードを「1」、リピート再生を「 」に設定します。

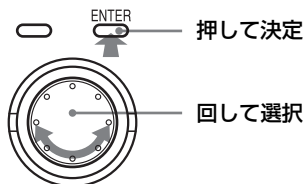
メイン再生モード

再生したい曲やグループなどの単位を選ぶ。

記号	メニュー表示	再生状態
（なし）	通常再生	ディスク全曲を1回再生
	グループ再生*1	今再生している曲が入っているグループのみを再生
	アーティスト再生*2	お好みのアーティストの曲のみを再生
	アルバム再生*2	お好みのアルバムの曲のみを再生
	ブックマーク再生	ブックマーク（しおり）をつけた曲のみを順番に再生
PGM	プログラム再生	聞きたい曲を好きな順に並べかえて再生
	プレイリスト再生*3	選んだm3uプレイリストの曲のみを再生

*1 ATRAC CD/MP3 CDまたはMDの場合のみ表示されます。
*2 Hi-MDモードの場合のみ表示されます。
*3 MP3 CDの場合のみ表示されます。m3uプレイリストは、再生するMP3ファイルの順番をあらかじめ記載したファイルのことです。m3uフォーマット対応のエンコードソフトウェアでCD-R/RWを作成したときに使用できます。

サブ再生モード

メイン再生モードで選んだ曲の再生方法を選ぶ。

表示（意味）	再生方法
（なし） （通常の再生）	全曲を1回再生
1 （1トラック再生）	選んだ1曲のみを再生
SHUF （シャッフル再生）	メイン再生モードで選んだ曲を順不同に再生

リピート再生（ ）

選んだメイン再生モード／サブ再生モードで繰り返し再生したいとき設定する。

リモコン

本 体

メイン再生モードを選んで曲を聞く

1 **再生中または停止中にYES•ENTER/MENUボタンを押す。**
メイン再生モード選択画面にします。

2 **⬆または⬇ボタンを押してお好みの再生モードを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
このあと、各メイン再生モードの操作方法に従って操作します。

選んだメイン再生モードを解除するには

上記手順2で「通常再生」を選ぶ。

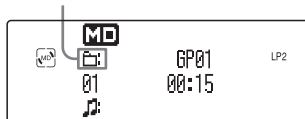
曲を聞く（通常再生）

1 **「メイン再生モードを選んで曲を聞く」の手順1と2を行い、手順2で「通常再生」を選ぶ。**

2 **⬆または⬇ボタンでお好みのグループを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだグループ内の曲の一覧が表示されます。
ディスクにグループが1つもない場合は、この手順は必要ありません。

3 **⬆または⬇ボタンでお好みの曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、ディスクの最後の曲までを再生します。

グループの曲を聞く（グループ再生）

1 **「メイン再生モードを選んで曲を聞く」の手順1と2を行い、手順2で「グループ再生」を選ぶ。**
グループの一覧が表示されます。

2 **⬆または⬇ボタンを押してお好みのグループを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだグループ内の曲の一覧が表示されます。

3 **⬆または⬇ボタンを押してお好みの曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、グループ内の最後の曲までを再生します。

選んだメイン再生モードのマークが表示される

ご注意

グループに含まれない曲がある場合は、MDでは「Group – –」、MP3 CDでは「Root」が表示されます。

ちょっと一言

グループ再生中も、「グループダイレクト選曲」（58ページ）の手順でグループの頭出しができます。

アーティストを選んで曲を聞く（アーティスト再生）（Hi-MDモードの場合のみ）

曲にアーティスト名がついていると、アーティスト名で曲を検索して聞くことができます。

1 **「メイン再生モードを選んで曲を聞く」の手順1と2を行い、手順2で「アーティスト再生」を選ぶ。**
アーティストの一覧が50音順に表示されます。

次のページへつづく

2 **↑または↓ボタンを押してお好みのアーティスト名を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだアーティストの曲の一覧が、録音された順に表示されます。

3 **↑または↓ボタンを押してお好みの曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、曲の一覧の最後の曲までを再生します。

ちょっと一言
再生中にGROUPボタンを押してから⏮または⏭ボタンを押すと、アーティストの頭出しをすることができます。

アルバムを選んで聞く（アルバム再生）（Hi-MDモードの場合のみ）

曲にアルバム名がついていると、アルバム名で曲を検索して聞くことができます。

1 **「メイン再生モードを選んで曲を聞く」（61ページ）の手順1と2を行い、手順2で「アルバム再生」を選ぶ。**
アルバムの一覧が50音順に表示されます。

2 **↑または↓ボタンを押してお好みのアルバム名を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだアルバムの曲の一覧が、録音された順に表示されます。

3 **↑または↓ボタンを押してお好みの曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、アルバムの最後の曲までを再生します。

ちょっと一言
再生中にGROUPボタンを押してから⏮または⏭ボタンを押すと、アルバムの頭出しをすることができます。

好きな曲だけを選んで聞く（ブックマーク再生）

好きな曲にブックマーク（しおり）をつけていき、その曲だけを再生することができます。ただし、曲順を変えることはできません。

ブックマークをつけるには

1 **ブックマークをつけたい曲を再生し、▶II ボタンを2秒以上押す。**
ブックマークの1曲目が登録されます。

2 **手順1を繰り返してブックマークをつけていく。**
CDでは最大512曲まで、MDでは録音されている全曲数まで、ブックマークをつけられます。

ご注意
ディスクを取り出すと、登録したブックマークの記録も消えます。

ブックマークした曲を再生するには

1 **「メイン再生モードを選んで曲を聞く」（61ページ）の手順1と2を行い、手順2で「ブックマーク再生」を選ぶ。**

2 **↑または↓ボタンを押して再生したい曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
選んだ曲から、曲の番号の小さい順に、ブックマークされた曲だけを再生します。

ブックマークを消すには

ブックマークを消したい曲を再生し、▶IIボタンを2秒以上押す。

好きな順に曲やグループを並べかえて聞く（プログラム再生）

曲やグループを好きな順に並べかえて聞くことができます。

曲をプログラムする（トラックプログラム）

1 「メイン再生モードを選んで曲を聞く」（61ページ）の手順1と2を行い、手順2で「プログラム再生」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して「トラック」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

3 ↑または↓ボタンを押して「曲名検索」* を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

* グループのあるディスクでは、「グループ検索」を選ぶこともできます。
Hi-MDでは、「アーティスト検索」「アルバム検索」を選ぶこともできます。

4 ↑または↓ボタンを押して曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

手順3で「曲名検索」以外から検索したときは、曲を決定するまでこの操作を続けます。

5 手順3、4を繰り返して曲をプログラムする。

64曲までプログラムできます。

6 選び終わったらYES•ENTER/MENUボタンを2秒以上押して決定する。

設定が確定し、「PGM」が表示され、プログラムの1曲目から再生が始まります。

ちょっと一言

- 音源が音楽CDまたはMDの場合、プログラムした曲を録音することもできます（67、84ページ）。
- CDまたはMDを取り出すまで、プログラムした内容は保持されます。

グループをプログラムする（グループプログラム）（音楽CD以外）

1 「メイン再生モードを選んで曲を聞く」（61ページ）の手順1と2を行い、手順2で「プログラム再生」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して「グループ」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

3 ↑または↓ボタンを押してグループを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

4 手順3を繰り返してグループをプログラムする。

20個までプログラムできます。

5 選び終わったら、YES•ENTER/MENUボタンを2秒以上押して決定する。

プログラムが確定し、「PGM」が表示され、プログラムした先頭のグループの1曲目から再生が始まります。

ちょっと一言

CDまたはMDを取り出すまで、プログラムした内容は保持されます。

プログラムを確認するには

プログラム中：YES•ENTER/MENUボタンを押す。
プログラム再生停止中：⏮または⏭ボタンを押す。

次のページへつづく

選んだプレイリストの曲を聞く（m3uプレイリスト再生）（MP3 CDのみ）

好きなm3uプレイリストの中の曲を聞けます。

1 「メイン再生モードを選んで曲を聞く」（61ページ）の手順1と2を行い、手順2で「プレイリスト再生」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押してプレイリストを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

3 ↑または↓ボタンを押して再生したい曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、プレイリストの最後の曲までを再生します。

プレイリストファイルについて

プレイリストファイルは、音楽ファイルの演奏順を決めるものです。
本機で使用できるプレイリストファイルは、テキストエディターなどで作成できます。音楽ファイルのパス（保存場所とファイル名）を演奏順に記述し、拡張子を「m3u」（大文字でも可）にしてディスクに記録します。

ご注意
パスの区切りに使用できるのは「¥」、「\」のみです。

プレイリストの例

プレイリストが記録されているメディアのルートからのパスを入力します。
例：
¥Music¥Popular¥New¥01new.mp3
¥Music¥Popular¥New¥May¥may01.mp3

- プレイリストはルートディレクトリーに保存してください。（サブディレクトリーに入れないでください。）
- 本機では最大8個までのプレイリストファイルを認識します。
- 本機では1つのプレイリストファイルで最大128ステップまで認識します。
- 本機では、プレイリスト内の1行は、フォルダ名、ファイル名とも、126文字まで登録できます。
  例：¥ABC¥XYZ¥TEST.MP3
  ↓ ↓
  126文字以下 126文字以下

サブ再生モードを選ぶ

メイン再生モードで選んだ曲を、いろいろな再生のしかたで聞くことができます。
例えば、メイン再生モードで「グループ再生」、サブ再生モードで「シャッフル」を選ぶと、選んだグループの中の曲を順不同に再生できます。

リモコンのMODEボタンを繰り返し押して通常再生（表示なし）、「1」（1トラック再生）、または「SHUF」（シャッフル再生）を表示させる。

解除するには

リモコンのMODEボタンを繰り返し押して「1」や「SHUF」を消す。

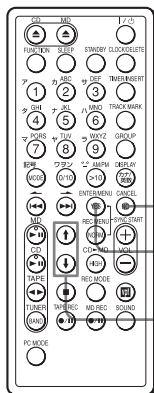
ご注意
シャッフル再生中にダイレクト選曲（57ページ）をすると、シャッフル再生は解除されます。

繰り返し聞く（リピート再生）

サブ再生モードで選んだ再生モードで曲を繰り返し聞くことができます。

リモコンのMODEボタンを「↻」が表示されるまで2秒以上押し続ける。

解除するには

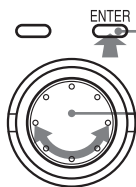
リモコンのMODEボタンを2秒以上押して「↻」を消す。

ご注意
リピート再生停止中に録音を始めると、リピート再生は解除されます。

曲を探す（検索）

（Hi-MD、MDの場合のみ）

曲名、グループ名、アーティスト名、アルバム名から検索して、お好みの曲を簡単に探すことができます。アーティスト名とアルバム名はHi-MDモードでお使いのディスクのときのみ表示されます。

リモコン

本 体

1 **メニュー操作（49ページ）で「便利機能」－「曲検索」を選ぶ。**

2 **↑または↓ボタンを押して曲の検索方法を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

表示	検索方法
曲名検索	曲名から検索する
グループ検索	グループ名から検索する
アーティスト検索*	アーティスト名から検索する
アルバム検索*	アルバム名から検索する

* Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

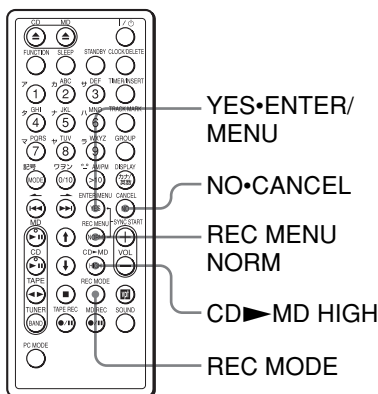
3 **手順2で「曲名検索」を選んだ場合は手順4へ進む。**
それ以外は↑または↓ボタンを押してお好みのグループ、アーティスト、アルバムを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

選んだグループ、アーティスト、アルバムの中の曲の一覧が表示されます。

4 **↑または↓ボタンを押して曲を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

選んだ曲の再生が始まります。

ご注意

- 手順4のあとは「通常再生」以外のメイン再生モードとサブ再生モードは解除されます（リピート再生は働きます）。
- 曲の検索中、名前がついていない曲は、曲の一覧の一番最後に表示されます。
- 「並び替え中です」と表示されている間は操作しないでください。本機がMDの情報を読み込み、並び替えています。

ちょっと一言

本機でMDの曲に名前をつけるには、「名前をつける」（71ページ）をご覧ください。

CDの再生中の曲だけを録音する

（REC IT録音）

再生中の曲だけを、ボタンひとつでその曲の頭から録音できます。聞いている曲をすぐに録音したいとき便利です。

1 録音用MDを入れる。

2 再生するCDを入れる。

3 ブランクディスクの場合は、メニュー操作でディスクモードを「Hi-MD」か「MD」に設定する。

詳しくは「ディスクモードを選ぶ」（90ページ）をご覧ください。

4 REC MODEボタンを押して録音モードを選ぶ。

詳しくは31ページ手順4をご覧ください。

5 録音したい曲を再生する。

6 高速録音するには、CD►MD HIGH（本体ではHIGH SPEED REC）ボタンを押す。

再生中の曲の頭まで戻って録音が始まります。

録音済みMDの場合、すでに録音してある部分の後ろに録音します。

録音を終えるとMDは自動的に停止しますが、CDの再生は続きます。

高速録音中はスピーカーやヘッドホンから音は出ません。

音楽を聞きながら通常の速度で録音するには

上記手順6で、「音楽を聞きながら通常の速度で録音するには」（32ページ）の手順1～3を行う。

再生中の曲の頭まで戻って録音が始まります。

「CD > MD」が表示されたら

MDの録音できる残り時間が足りません。

再生中の曲を最後まで録音できなくてもよいときは、YES•ENTER/MENUボタンを押します。録音をやめるときは、NO•CANCELボタンを押します。

その他のメッセージが表示されたときは110～116ページをご覧ください。

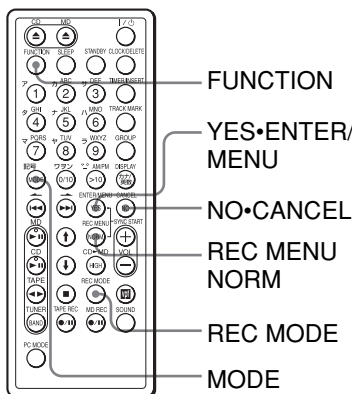
ご注意

メニュー操作で「グループ録音オン」を選んでいる（68ページ）場合でも、REC IT録音のときはグループはできません。

その他、33ページ、34ページの「ご注意」「ちょっと一言」をご覧ください。

CDから好きな曲を選んで録音する

（CD-MDプログラムシンクロ録音）

CDの好きな曲を好きな順番で録音できます。

1 録音用MDを入れる。

2 再生するCDを入れる。

3 FUNCTIONボタンを押して「CD」を表示させる。

4 「曲をプログラムする」の手順1-6（63ページ）を行い、録音したい曲を選び、プログラム再生を始める。

プログラムでの曲順

選んだ曲番　再生時間

5 ■ボタンを押してプログラム再生を止める。

6 ブランクディスクの場合は、メニュー操作でディスクモードを「Hi-MD」か「MD」に設定する。

詳しくは「ディスクモードを選ぶ」（90ページ）をご覧ください。

7 REC MODEボタンを押して録音モードを選ぶ。

詳しくは31ページ手順4をご覧ください。

8 高速録音するには、CD►MD HIGH（本体ではHIGH SPEED REC）ボタンを押す。

プログラムした先頭曲まで戻って録音が始まります。

録音済みMDの場合、すでに録音してある部分の後ろに録音します。

録音が終わると、CD、MDとも自動的に停止します。

高速録音中はスピーカーやヘッドホンから音は出ません。

音楽を聞きながら通常の速度で録音するには

上記手順8で、「音楽を聞きながら通常の速度で録音するには」（32ページ）の手順1～3を行う。

プログラムした先頭曲まで戻って録音が始まります。

次のページへつづく

CDから好きな曲を選んで録音する（CD-MDプログラムシンクロ録音）（つづき）

「CD > MD」が表示されたら

MDの録音できる残り時間が足りません。
プログラムした曲を最後まで録音できなくてもよいときは、YES•ENTER/MENUボタンを押します。録音をやめるときは、NO•CANCELボタンを押します。
その他のメッセージが表示されたときは110～116ページをご覧ください。

ご注意

その他、33、34ページの「ご注意」「ちょっと一言」をご覧ください。

新しいグループを作って録音する

（グループ録音）

本機は、MDに録音するときに常に新しいグループを作って録音するように設定されています（お買い上げ時の設定）。1枚のMDにCD何枚分かを録音するときなどに便利です。

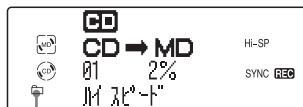
Hi-MDモードでお使いのディスクでは最大255個のグループを、MDモードでお使いのディスクでは最大99個のグループを作ることができます。

1 **REC MODEボタンを押して「MDグループ録音」を選びYES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

2 **↑または↓ボタンを押して、「グループ録音オン」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

お買い上げ時には「グループ録音オン」に設定されています。

3 **お好みの録音方法で録音する。**

例）CD-MD高速シンクロ録音

「グループ録音オン」のとき、録音中に表示される

録音が終わったところまでが1つのグループになります。

グループを作らずに録音するには

上記手順2で「グループ録音オフ」を選ぶ。
録音後、MD▶IIを押すとディスクの1曲目から再生が始まります。

「グループ録音オン」で録音した直後に、録音した内容を再生するには

MD▶IIを押す。
録音したグループの1曲目から再生が始まります。

REC IT録音をしたときは

「グループ録音オン」でREC IT録音してもグループはできません。録音後、MD▶IIを押すと録音した曲を再生します。

ちょっと一言

- 録音中に、グループ名をつけることができます（「名前をつける」（71ページ）。
- MDのグループ機能について詳しくは、36、70ページをご覧ください。

無音部分に自動でトラックマークをつける

（トラックマークモード）

本機は、LINEからMDへの録音中、音源に2秒以上の無音部分があるときに自動的に新しいトラックマーク（曲番）がつくように設定されています（お買い上げ時の設定）。

1 REC MODEボタンを押して⬆または⬇ボタンで「トラックマークモード」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

2 ⬆または⬇ボタンで「オート」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

お買い上げ時には「オート」に設定されています。

自動的にトラックマークをつけないようにするには

手順2で「マニュアル」を選びます。

ちょっと一言

- 音源に小さな音が続くときにもトラックマークがつく場合があります。
- CDからMDへの録音中は、音源の曲番に従って自動的にトラックマークがつきます。
- MDへのマニュアル録音中は、トラックマークモード以外にも、手動でお好みの位置にトラックマークをつけたり（48ページ）、録音後に曲を分けることができます（80ページ）。

ご注意

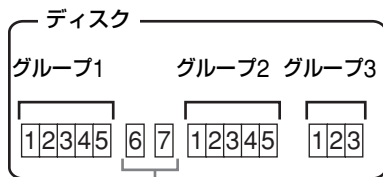
音源の状態によっては、トラックマークがつかない場合があります。その場合は、「曲を分ける（ディバイド）」（80ページ）の手順でトラックマークをつけてください。

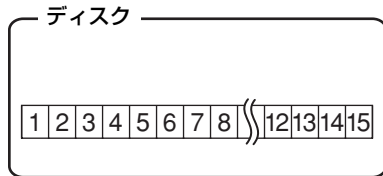
編集する前に

本機のMDでは、以下の編集操作ができます。曲に名前をつけたりグループを作れば、いろいろな再生モード（60～64ページ）をお楽しみいただけます。

- 名前をつける　71ページ
- グループを作る　74ページ
- グループを解除する　75ページ
- 曲順を変える　76ページ
- 曲やグループを消す　78ページ
- 曲を分ける　80ページ
- 曲を1つにする　80ページ
- ディスクを初期化する　81ページ

ご注意

- 再生専用ディスクは編集はできません。
- 誤消去防止つまみを閉めてください（118ページ）。
- **編集後、「システムファイルの書込み中です」が点滅しているときは、それまで編集した情報をディスクに記録しています。電源コードを抜いたり、本機を動かしたりしないでください。**正しく記録されないことがあります。

グループの構造と記録のされかた

グループ設定前のディスク

1~5曲目を「グループ1」に
8~12曲目を「グループ2」に
13~15曲目を「グループ3」に
6、7曲目はグループに入れない

グループ設定後のディスク

グループに入っていない曲は「Group – –」に属しているとみなされる。

Hi-MDモードでお使いのディスクでは最大255個のグループを、MDモードでお使いのディスクでは最大99個のグループを作ることができます。

グループ情報の記録のされかた

グループ機能を使って編集すると、グループ情報は、「ディスク名」として自動的にMDに記録されます。具体的には次のような文字列がディスク名の記録領域に書き込まれます。

例）0;Favorites//1-5;Rock//6-9;Pops//
　　　①　　　　②　　　　③

①ディスク名：「Favorites」
②1曲目から5曲目のグループ名：「Rock」
③6曲目から9曲目のグループ名：「Pops」

そのため、グループ機能を使って編集したMDを、グループ機能未対応機器やグループ機能を働かせていない対応機器で読み込むと、上の文字列がそのまま「ディスク名」として表示されます。

名前をつける
（タイトル入力）

MDに曲名やグループ名などの名前をつけたり、変更することができます。Hi-MDモードでお使いのディスクには、アーティスト名やアルバム名もつけることができます。リモコンでのみ操作できます。

入力できる文字の種類

- カタカナ（半角）
- アルファベットA～Zの大文字、小文字
- 数字0～9
- 記号 !"#$%&()＊.；＜＝＞?@_` +−’，/ ：␣（スペース）

入力できる文字数

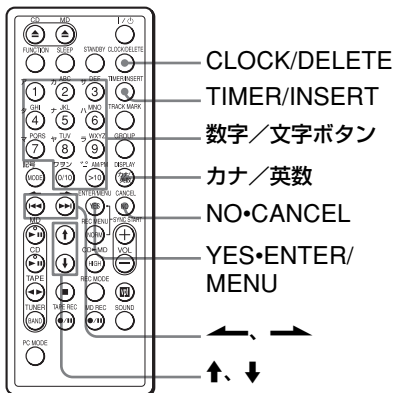
曲名、グループ名、ディスク名などのタイトルにそれぞれ約200文字（全文字種混在の場合）

1枚のディスクに入力できる文字数

- Hi-MDモードの場合：
約55,000文字
- MDモードの場合：
約1,700文字

文字数によって登録できるタイトル数は異なります。

ご注意

- 本機では、漢字やひらがなを表示することはできますが、入力できません。付属のソフトウェアSonicStageを使えば、それらの入力ができます。
- ディスク名やグループ名に「abc//def」のように文字の間に「//」を使うと、グループ機能を使えなくなる場合があります（MDモードの場合のみ）。

名前をつける

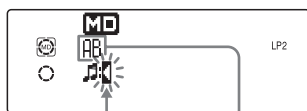
再生中、録音中、停止中、いずれの状態でも名前をつけることができます。再生中や停止中に曲名、アーティスト名、アルバム名をつけるときは、名前をつけたい曲を選んでいる状態で名前をつけてください。グループに名前をつけるときは、名前をつけたいグループの中の曲を選んでいる状態で名前をつけてください。

1 **メニュー操作（49ページ）で「編集」－「タイトル入力」を選ぶ。**

2 **↑または↓ボタンで名前をつけたいタイトルを選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

つける名前	表示
曲名	曲名入力
グループ名*1	グループ名入力
アーティスト名*2	アーティスト名入力
アルバム名*2	アルバム名入力
ディスク名*3	ディスク名入力

*1 REC IT録音（66ページ）中は表示されません。

*2 Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

*3 録音中は表示されません。

次のページへつづく

MD編集

録音中に曲名、アーティスト名、アルバム名をつけるときは、名前をつける曲を↑または↓ボタンで選んでYES•ENTER/MENUボタンを押して決定します。
カーソルが入力エリアで点滅し、文字を入力できる状態になります。

カーソルが点滅する

入力モードがカナのときは「カナ」と表示される

3 名前をつける。

① DISPLAY•カナ／英数ボタンで文字入力モードを選ぶ。
カタカナ入力モード：「カナ」が表示されます。
英字•数字入力モード：「AB」が表示されます。
② 名前を入力する。
文字の削除と追加には以下のボタンを使います。

機能	操作
文字カーソルを左右に移動する。	◀または▶を押す。
カーソルの前に1文字分の空白を入れる。	TIMER/INSERTを押す。
カーソル上の文字を削除する。	CLOCK/DELETEを押す。
文字入力をやめる。	NO•CANCELを押す。

4 YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

ちょっと一言

- グループ名は、録音を止めたところまで同じ名前がつきます。
- CDからのシンクロ録音中にグループ名以外のタイトルをつけた場合は、手順4のあとに曲を選ぶ画面に戻ります。続けて他の曲のタイトルを入力することができます（最大99曲まで）。
編集を終了するときは、NO•CANCELボタンを2秒以上押してください。他のタイトルを入力する場合は、NO•CANCELボタンを短く押せば、手順2に戻ります。

名前を変更するには

「名前をつける」（71〜このページ）の手順で名前を変更してください。

ご注意

- カナ入力したタイトルを、カナ表示に対応していない他のMD機器で表示させると、ローマ字表記になります。その際、先頭と最後に「＾」がつきます（MDモードの場合のみ）。
- 他の機器でつけた200文字以上の曲名やグループ名、ディスク名を、本機で書き換えることはできません（MDモードの場合のみ）。
- 付属のSonicStageソフトウェアなどで入力した漢字の名前を編集することはできません。

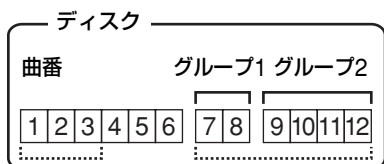
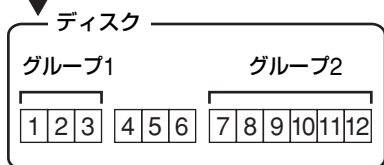
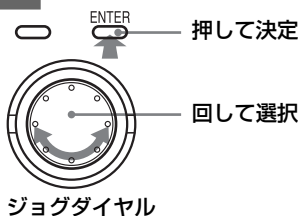
入力できる文字について

数字／文字ボタンの各ボタンに文字が割り当てられ、ボタンを押すたびに以下の順に文字が変わります。

ボタン	カタカナ入力（「カナ」表示）	英字・数字入力（「AB」表示）
1ア	ア→イ→ウ→エ→オ ォ←ェ←ゥ←ィ←ァ←	1
2カABC	カ→キ→ク→ケ→コ	A→B→C→a→b→c→2
3サDEF	サ→シ→ス→セ→ソ	D→E→F→d→e→f→3
4タGHI	タ→チ→ツ→テ→ト→ッ	G→H→I→g→h→i→4
5ナJKL	ナ→ニ→ヌ→ネ→ノ	J→K→L→j→k→l→5
6ハMNO	ハ→ヒ→フ→ヘ→ホ	M→N→O→m→n→o→6
7マPQRS	マ→ミ→ム→メ→モ	P→Q→R→S→p→q→r→s→7
8ヤTUV	ヤ→ユ→ヨ→ャ→ュ→ョ	T→U→V→t→u→v→8
9ラWXYZ	ラ→リ→ル→レ→ロ	W→X→Y→Z→w→x→y→z→9
0/10ワヲン	ワ→ヲ→ン	0
>10 ゛_゜ AM/PM	゛→゜→ー	――――
モード記号	!→"→#→$→%→&→(→)→*→.→;→<→= (スペース)←:←/←,←'←-←+←`←_←@←?←>←	

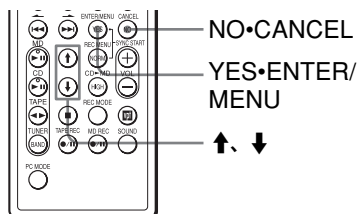
グループを作る

（グループ設定）

すでに録音されている複数の曲をグループにまとめたり、複数のグループを１つのグループにまとめます。曲番は、グループごとに1から順につきます。

1と3、2と4、3と7、8、4と9～12など、連続していない曲番やグループなどはまとめることができません。
既存グループの途中の曲を最初の曲、または最後の曲として、新しいグループを作ることはできません。
操作中、曲番はディスク内の通し番号で表示されます。

ご注意

- 1枚のディスク内の曲名、グループ名、アーティスト名、アルバム名、ディスク名の合計が最大入力文字数を超えている場合、
  – Hi-MDモードでお使いの場合は、グループ設定はできますが、手順４でグループ名をつけることができません。
  – MDモードでお使いの場合は、グループ設定はできません。
- まとめることができるのは連続している曲またはグループのみです。連続していない曲またはグループをまとめたい場合は、曲順またはグループの順番を並べかえて（76、77ページ）、まとめたい曲やグループを連続させてから行ってください。

リモコン

本 体

1 停止中に、メニュー操作（49ページ）で「編集」–「グループ設定」を選ぶ。

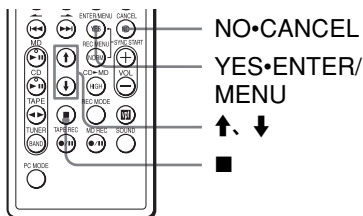
先頭曲の曲番が点滅します。

2 ⬆または⬇ボタンを押してグループの先頭にしたい曲を選んで表示させ、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

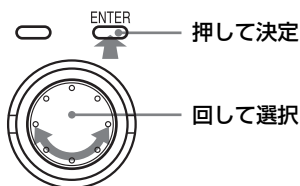
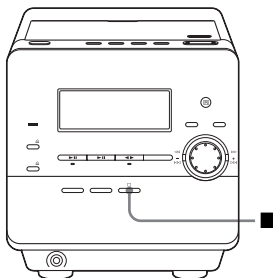
すでにグループがあるディスクの場合は、グループの先頭の曲番かグループに属さない曲の曲番だけが選べます。
先頭曲を決定すると最終曲の曲番が点滅します。

3 ⬆または⬇ボタンを押してグループの最後にしたい曲を選んで表示させ、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

すでにグループに属している曲を先頭曲に選んだ場合は、グループの最後の曲の曲番が表示されます。
グループの最終曲を決定するとグループ名を入力できるようになります。

4 数字／文字ボタンを押してグループ名をつける（「名前をつける」71ページ）。

5 YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

これでグループが設定されました。

ご注意

- 手順3で最後の曲を選ぶときは、手順2で選んだ曲より後の曲、または、すでにあるグループの最後の曲かグループに属さない曲しか選べません。
- 再生中にグループ設定を行うと音切れがすることがあります。

グループを解除する

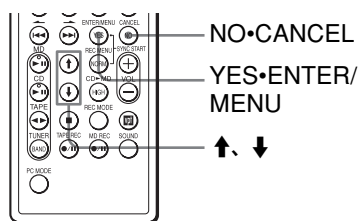
（グループ解除）

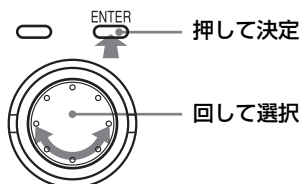
リモコン

本体

1 解除したいグループを選び（「聞きたいグループを選ぶ」（58ページ））、内容を確認する。

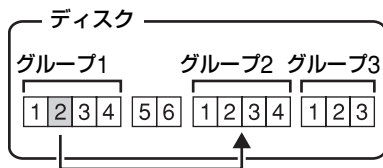
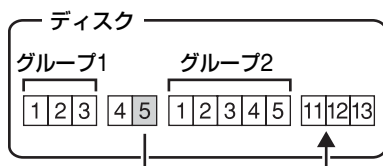
2 ■を押す。

次のページへつづく

3 **メニュー操作（49ページ）で「編集」–「グループ解除」を選ぶ。**
「グループを解除して良いですか？」、「はい：ENTER　いいえ：CANCELを押してください」が表示されます。

4 **YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**
グループが解除されます。

曲順を変える（ムーブ）

曲やグループを移動して順番を変更できます。

リモコン

本体

曲を移動する

曲を別のグループに移動したり、グループの外へ移動することができます。

例1：グループに属している曲を別のグループに移動する場合（図では、グループ1の2曲目を、グループ2の3曲目に移動する）

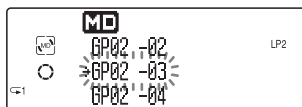
例2：グループに属していない曲をグループに属していない曲の間に移動する場合（図では5曲目を11曲目と12曲目の間に移動する）

1 移動したい曲の再生中または停止中に、メニュー操作（49ページ）で「編集」–「移動」–「曲移動」を選ぶ。

表示窓の中段に選んだ曲番または選んだ曲が属しているグループ番号が点滅します。

例1の場合

例2の場合

2 グループの外に曲を移動する場合は、手順3へ進む。
別のグループ内に曲を移動する場合は、↑または↓ボタンを押して移動先のグループを表示させ、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

例1の場合

同じグループ内で曲を移動する場合は、曲が属しているグループ番号を選びます。

3 ↑または↓ボタンを押して移動先の曲番を表示させ、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

例1の場合

例2の場合

これで曲が移動します。

グループの順番を並べかえる

1 移動したいグループ内の曲を再生中に、メニュー操作（49ページ）で「編集」–「移動」–「グループ移動」を選ぶ。

表示窓の中段に再生中の曲が入っているグループの番号が点滅します。

2 ↑または↓ボタンを押して移動したい場所に移し、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

例： 1番目のグループ（Group01）を2番目のグループ（Group02）と3番目のグループ（Group03）の間に移動する場合

ご注意

- 曲名やグループ名が入力されているときは、操作の途中で━►ボタンを押すとグループ名を確認することができます。◄━ボタンを押すと、曲番やグループ番号に戻ります。
- グループの中の曲を全部移動した場合、そのグループは自動的にディスクから消去されます。

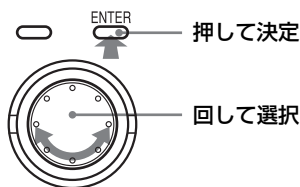
曲やグループを消す

（イレース）

一度消した曲やグループは元に戻すことができません。消す前に、内容をよく確認してください。

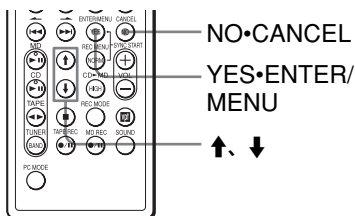
パソコンから転送した曲を消すときは

パソコンから転送した曲を本機で消そうとすると、「PC転送・録音曲を削除して良いですか？」 と表示されます。そのままYES•ENTER/MENUボタンを押して消した場合、曲の権利は次のようになります。

- Hi-MDモードで転送した曲の場合は、全曲削除したそのディスクを本機に入れパソコンに接続すると、曲の権利が自動的に復活します。ディスクに1曲でも残っていると、曲の権利は戻りません。
- MDモードで転送された曲の場合は、曲の権利が1回分失われます。曲の権利を失いたくないときは、曲を消す前にパソコンにつないで曲の権利を戻してください。

Hi-MDモードでお使いの場合のご注意

音楽データ以外のデータ（テキストデータや画像データなど）は消すことができません。音楽データ以外のデータを消すには、「ディスクを初期化する」（81ページ）をご覧ください。

リモコン

本体

1曲を消す

1 消したい曲の再生中に、メニュー操作（49ページ）で「編集」–「消去」–「1曲消去」を選ぶ。

「曲を削除して良いですか？」、「はい：ENTER　いいえ：CANCELを押してください」が表示されます。

選択した曲がパソコンから転送された曲の場合は、「PC転送・録音曲を削除して良いですか？」が表示されます。

2 YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

曲が消去され、次の曲の再生になります。消した曲より後の曲番は1つずつくり上がります。

ご注意

グループの中の曲を全部消した場合、そのグループは自動的に消去されます。

曲の一部分を消すには

無音部分など不要な部分だけを消したいときは、不要な部分の始まりと終わりにトラックマークをつけて（80ページ）、その部分を消してください。

グループを消す

グループ名とグループ内の全ての曲を消去します。

1 削除したいグループを選び（「聞きたいグループを選ぶ」（58ページ））、内容を確認する。

2 ■を押す。

3 メニュー操作（49ページ）で「編集」–「消去」–「1グループ消去」を選ぶ。

「グループを削除して良いですか？」、「はい：ENTER　いいえ：CANCELを押してください」が表示されます。
選択したグループにパソコンから転送された曲が入っている場合は、「PC転送・録音曲を削除して良いですか？」が表示されます。

4 YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

全曲を消す

ディスク上の全ての曲を消します。
Hi-MDモードでお使いのディスクの場合、音楽データのみ消えます。テキストデータや画像データなど、音楽データ以外のデータも消したい場合は、ディスクを初期化してください（81ページ）。

1 消したいディスクを再生し、ディスクの内容を確認する。

2 ■を押す。

3 メニュー操作（49ページ）で「編集」–「消去」–「全曲消去」を選ぶ。

「全ての曲を削除して良いですか？」、「はい：ENTER　いいえ：CANCELを押してください」が表示されます。
ディスクにパソコンから転送された曲が入っている場合は、「PC転送・録音曲を削除して良いですか？」が表示されます。

4 YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

「システムファイルの書込み中です」が点滅し、全曲が消去されます。消去が終わるとMDモードでお使いのディスクの場合は「ブランクディスクです」が点滅します。
Hi-MDディスクの場合は、「何も録音されていません」が点滅します。

途中で設定を止めるときは

NO•CANCELボタンを2秒以上押す。

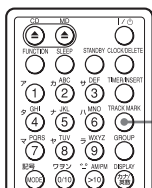
1つ前の設定に戻すときは

NO•CANCELボタンを押す。

ちょっと一言

「MDモード」でお使いのディスクも、全てのデータを消してディスクモードで「Hi-MD」を選び直せば、Hi-MDディスクとしてお使いいただけます（90ページ）。

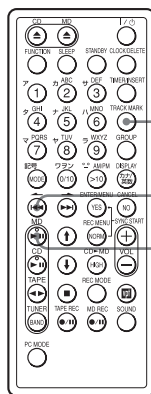
曲を分ける（ディバイド）

曲の途中にトラックマークをつけて、そこから後ろを次の曲にすることができます。曲を分けると曲番は下のようになります。

再生中または再生一時停止中に、マークをつけたい位置でTRACK MARKボタンを押す。
「トラックマークをつけました」が表示され、曲番が1つ増えます。そこから次の曲として記録されます。

ご注意

- パソコンから転送した曲は分けることができません。
- ディバイド機能を使うと、ブックマーク登録とプログラムは消えてしまいます。
- 曲の始めと終わりの部分で曲を分けることはできません。
- 「編集操作はできません」が表示されたらその曲を分けることはできません。
  MDは何度も編集を繰り返すと分けられなくなることがあります。これは、MDのシステム上の制約（122ページ）で、故障ではありません。
- 曲を分けた結果、最大曲数（Hi-MDモードでお使いのディスクでは2,047曲、MDモードでお使いのディスクでは254曲）を超えてしまう場合は、曲を分けることはできません。
- ディバイドされた新しい曲には録音日時はつきますが、曲名はつきません。

曲を1つにする（コンバイン）

連続した2つの曲を1つの曲にまとめることができます。曲番は次のようになります。

1　曲番を消したい曲を再生し、MD▶IIを押して再生一時停止にする。

2　I◀◀ボタンを押して曲の先頭（00:00）にする。
例えば、2曲目と3曲目をつなぎたいときは、3曲目の先頭にします。

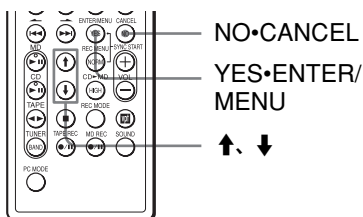
3　TRACK MARKボタンを押す。
「トラックマークを消しました」が表示され、指定した曲が前の曲につながります。

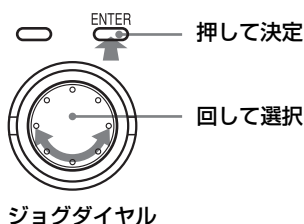
ご注意

- 録音日時や曲名は、つないだ2曲の1曲目のものになります。
- 別のグループに属する連続した2つの曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲が属するグループに登録されます。また、連続した、グループ登録された曲とされていない曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲の設定と同じになります。
- パソコンから転送した曲はトラックマークを消すことができません。
- 異なる録音モードで録音された曲は、つなぐことができません。
- CDから録音したデジタル音源と、テープ／ラジオ／LINEから録音したアナログ音源をつなぐことはできません。

ディスクを初期化する（フォーマット）

Hi-MDモードでお使いのディスクの場合、フォーマット（初期化）機能を使ってディスクをお買い上げ時と同じ状態に戻すことができます。
この機能はHi-MDモードでお使いのディスクのときのみ使用することができます。

ディスクの種類	初期化後
Hi-MD規格専用1GBディスク	「何も録音されていません」が表示されます。 音楽データ以外のデータも含め、すべてのデータが消去されます。 **ご注意**：曲の権利は、ディスクを本機に入れ、パソコンと接続すると自動的に復活します。
60/74/80分ディスク	「ブランクディスクです」が表示されます。 音楽データ以外のデータも含め、すべてのデータが消去されます。 **ご注意**：転送された曲の権利が1回分失われます。

ご注意

- ディスクを初期化すると、音楽データ以外のデータも消去されます。音楽データ以外のデータが含まれているディスクは、パソコンにつないで内容を確認してください。
- 60/74/80分ディスクを初期化すると、パソコンから転送した曲も消え、その曲の転送の権利が一回分消えてしまいます。**曲の権利を消したくない場合は、曲をパソコンに転送し、権利を戻してから初期化してください。**
- SonicStageソフトウェアで60/74/80分ディスクを初期化した場合、または60/74/80分のブランクディスクの動作モードを選んだ場合でも、そのブランクディスクを本機でお使いになるときの動作モードは、メニューの「ディスクモード」の設定に従います。

次のページへつづく

ディスクを初期化する（フォーマット）（つづき）

リモコン

本 体

1 **停止中にメニュー操作（49ページ）で「編集」–「初期化」を選ぶ。**

2 **↑または↓ボタンを押して「はい」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

初期化が終わると、「何も録音されていません」または「ブランクディスクです」が表示されます。

途中で設定を止めるときは

NO•CANCELボタンを2秒以上押す。

1つ前の設定に戻すときは

NO•CANCELボタンを押す。

CDやMDの再生中の曲だけを録音する

（REC IT録音–TAPE）

曲の頭を自動的に探して録音が始まるので、聞いている曲をすぐに録音したいとき便利です。

1 録音する面を上に向けて、カセットデッキに録音用のテープを入れる。

TYPE I（ノーマル）テープをお使いください。

2 FUNCTONボタンを繰り返し押して「TAPE」を表示させる。

3 MODEボタンを繰り返し押して、片面録音（⟷）か両面録音（⇄）を選ぶ。

4 再生するCDまたはMDを入れ、録音したい曲を再生する。

5 REC MENU NORMボタンを押してメニュー画面にする。

6 ↑または↓を押して音源に合わせ「CD→TAPE」または「MD→TAPE」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

「録音開始して良いですか？」
「はい：ENTER　いいえ：CANCEL
を押してください」が表示されます。

7 YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

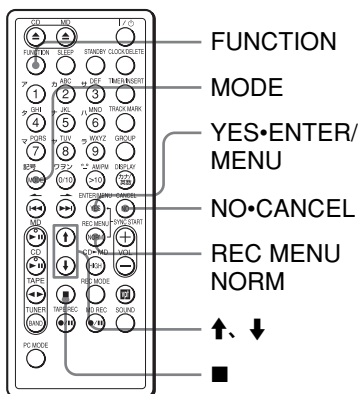
再生中の曲の頭まで戻り、録音状態になってから8秒後にCDまたはMDの再生が始まります。

例）音源がCDの場合

選んだ曲の録音が終ると、テープは自動的に停止しますが、CDまたはMDの再生は続きます。

ちょっと一言

- 両面録音（⇄）のときは、上の面から録音を始めてください。下の面（◀）から始めると、下の面の終わりで録音が止まってしまいます。
- ⇄を選んで録音すると、曲の途中で上の面が終っても、下の面にその曲の頭から録音し直します。
- 録音中、音量や音質を変えても録音される音は変わりません。
- テープに録音した曲を消去するには、86ページをご覧ください。

ご注意

録音開始時とテープが反転したとき、約8秒間無音録音になります。録音開始時は、手順7のあとすぐにCD▶IIまたはMD▶IIを押せば、その時点から録音が始まります。

CDやMDを録音する

（CD-TAPEプログラムシンクロ録音）
（MD-TAPEプログラムシンクロ録音）

CDやMDをまるごと録音したり、CDやMDの好きな曲を好きな順番で録音できます。

1 録音する面を上に向けて、カセットデッキに録音用のテープを入れる。

TYPE I（ノーマル）テープをお使いください。

2 FUNCTIONボタンを繰り返し押して「TAPE」を表示させる。

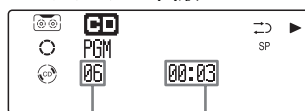
3 MODEボタンを繰り返し押して、片面録音（⇄）か両面録音（⇄）を選ぶ。

4 CDまたはMDを入れる。

5 FUNCTIONボタンを繰り返し押して、音源の「CD」または「MD」を表示させる。

まるごと録音するには、手順8へ進んでください。
好きな曲だけ選んで録音するには、手順6へ進んでください。

6 「曲をプログラムする」の手順1-6（63ページ）を行い、録音したい曲を選び、プログラム再生を始める。

プログラムでの曲順

選んだ曲番　再生時間

7 ■ボタンを押してプログラム再生を止める。

8 REC MENU NORMボタンを押してメニュー画面にする。

9 ↑または↓を押して音源に合わせ「CD→TAPE」または「MD→TAPE」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

「録音開始して良いですか？」
「はい：ENTER　いいえ：CANCEL
を押してください」が表示されます。

10 **YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

プログラムした先頭曲まで戻り、録音状態になってから8秒後にCDまたはMDの再生が始まります。
選んだ曲の録音が終わると、テープ、CDまたはMDとも自動的に停止します。

録音を途中で止めるには

■を押します。

録音途中でテープが終わってしまったときは

テープ、CD、MDとも自動的に停止します。

ちょっと一言

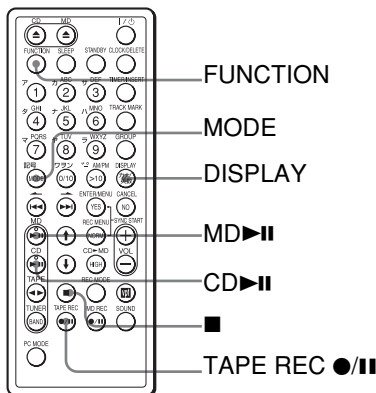
- カセットぶたを開けると、走行方向は常に▶向きになります。
- 両面録音（⇄）のときは、上の面から録音を始めてください。下の面（◀）から始めると、下の面の終わりで録音が止まってしまいます。
- ⇄を選んで録音すると、曲の途中で上の面が終っても、下の面にその曲の頭から録音し直します。
- 録音中、音量や音質を変えても録音される音は変わりません。
- テープに録音した曲を消去するには、86ページをご覧ください。

ご注意

録音開始時とテープが反転したとき、約8秒間無音録音になります。録音開始時は、手順10のあとすぐにCD▶❚❚またはMD▶❚❚を押せば、その時点から録音が始まります。

マニュアルで録音する

（マニュアル録音ーTAPE）

CDやMD、ラジオなどのお好きな部分だけを録音することができます。

1 **録音する面を上に向けて、カセットデッキに録音用テープを入れる。**

TYPE I（ノーマル）テープをお使いください。

2 **ファンクションボタンを繰り返し押して、「TAPE」を表示させる。**

3 **MODEボタンを繰り返し押して、片面録音（⟷）か両面録音（⇄）を選ぶ。**

次のページへつづく

テープに録音する

マニュアルで録音する（マニュアル録音－TAPE）（つづき）

4 FUNCTIONボタンを繰り返し押して、「TUNER」など録音したい音源を表示させる

- CD：本機のCDの音を録音する
  録音を始めたいところで一時停止にしておきます。
- MD：本機のMDの音を録音する
  録音を始めたいところで一時停止にしておきます。
- TUNER：本機のラジオの音を録音する
  録音したい放送局を受信します。
- LINE：本機のLINE IN端子につないだ機器から録音する
  つないだ機器を再生できる状態にしておきます。

5 TAPE REC ●/❚❚ボタンを押す。

「REC」が点滅し、テープが録音一時停止状態になります。

6 録音を始める。

- CD：TAPE REC ●/❚❚ボタンを押してすぐにCD▶❚❚を押す。
- MD：TAPE REC ●/❚❚ボタンを押してすぐにMD▶❚❚を押す。
- TUNER：TAPE REC ●/❚❚ボタンを押す。
  そのまま録音が始まります。
- LINE：TAPE REC ●/❚❚ボタンを押してすぐにつないだ機器を再生状態にする。

「REC」が点灯して録音が始まります。

録音を途中で止めるには

■を押す。録音を止めても、音源の再生は続きます。

録音を一時停止するには

TAPE REC ●/❚❚を押す。
一時停止しても、音源の再生は続きます。
録音を再開するときは、もう一度押します。

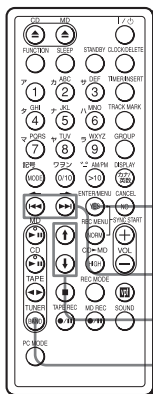
テープに録音した曲を消去するには

1 曲を消したいテープを入れる。
2 FUNCTIONボタンを繰り返し押して「TAPE」を表示させる。
3 TAPE REC ●/❚❚ボタンを押す。
4 TAPE REC ●/❚❚ボタンをもう一度押す。
曲の消去が始まり、■ボタンで止めたところまで消去されます。

ちょっと一言

- CDやMDからの録音中にDISPLAYボタンを押すと、通常のCDやMDの再生時と同じように表示が切り換わります（54~56ページ）。
- カセットぶたを開けると、走行方向は常に▶向きになります。下の面に録音したいときは、手順6の前でREC MODEを押して、◀を表示させます。
- 両面録音（⇄）のときは、上の面から録音を始めてください。下の面（◀）から始めると、下の面の終わりで録音が止まってしまいます。
- 録音中、音量や音質を変えても録音される音は変わりません。
- 録音途中でテープが終わってしまったときは、テープは自動的に停止します。

放送局を記憶させる

受信状態の良い放送局を自動的に記憶させ、次からは記憶させた番号（プリセット番号）でその局を選ぶことができます。FM（TV）20局、AM10局で、合計30局まで記憶できます。

1 TUNER BANDボタンを押して、FM（TV）またはAMを選ぶ。

2 TUNER BANDボタンを2秒以上押したままにする。

3 ↑または↓ボタンを押して「オートプリセット」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

「オートプリセット実行して良いですか？」
「はい：ENTER　いいえ：CANCELを押してください」が表示されます。

4 YES•ENTER/MENUボタンを押す。

プリセット番号の1番から順に、周波数の低い局から高い局へ受信状態の良い局だけが自動的に記憶されます。

電波が弱くオートプリセットで記憶できなかった局を記憶させる、またはプリセット番号を選んで記憶させる

1 TUNER BANDボタンを押して、FM（TV）またはAMを選ぶ。

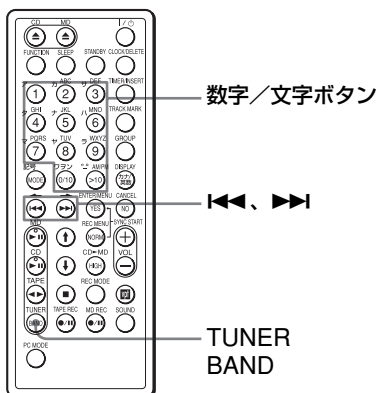
2 ◀━または━▶（本体ではTUNE +または–）ボタンを押して記憶させたい放送局を受信させる。

3 TUNER BANDボタンを2秒以上押したままにする。

4 ↑または↓ボタンを押して「マニュアルプリセット」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。
プリセット番号と周波数が点滅します。

5 ↑または↓ボタンを押して記憶させたいプリセット番号を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。
受信した放送局が記憶されます。

記憶させた放送局を聞く（プリセット選局）

あらかじめ記憶させておいた放送局を簡単に選ぶことができます。

1 TUNER BANDボタンを押して、FM（TV）またはAMを選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して聞きたい局のプリセット番号を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

数字／文字ボタンを押して直接プリセット番号を選ぶこともできます。
プリセット番号が10番以降の場合は、>10ボタンを押したあと10の位の数、1の位の数という順に数字／文字ボタンを押します。
例：プリセット番号12の場合は、>10→1→2の順に押します。

記憶させた放送局に放送局名をつける

1「記憶させた放送局を聞く」の手順1、2に従って、放送局を選ぶ。

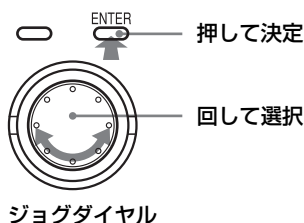
2 メニュー操作（49ページ）で「放送局名入力」を選ぶ。

3 放送局名をつける（最大16文字まで）。

操作	使うボタン
入力モード（カナ／英数）を選ぶ	DISPLAY •カナ／英数
文字を選ぶ	数字／文字ボタンを押す
カーソルを移動する	←または→
文字を消す	CLOCK/DELETE
文字を挿入する	TIMER/INSERT

4 YES•ENTER/MENUボタンを押す。

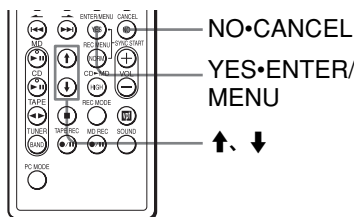
入力できる文字は

- カタカナ（半角）
- アルファベットA～Zの大文字、小文字
- 数字0～9
- 記号！" # $ % & ( ) ＊ . ; < = > ? @ _ `+ − ' , ／ : ␣（スペース）

ちょっと一言

文字の入力のしかたについて詳しくは、「名前をつける」（71ページ）をご覧ください。

リモコン

本 体

ジョグダイヤル

時刻を変更する

（時計設定）

設定した日付や時刻を変更できます。

1 停止中または再生中に、西暦年の数字が点滅するまでCLOCK/DELETEボタンを押したままにする。

メニュー操作（49ページ）で「各種設定」－「時計設定」を選んだ場合も、このあと同じ操作ができます。

2 YES•ENTER/MENUボタンを繰り返し押して、変更したい項目を点滅させる。

3 「時計を合わせる」（24ページ）手順2・3に従って希望の項目を変更する。

4 「時刻」の点滅中にYES•ENTER/MENUボタン押す。

詳しくは24ページをご覧ください。

ちょっと一言

12時間表示／24時間表示を切り換えるには、メニュー操作で「便利機能」－「時計表示設定」を選び「12時間表示／24時間表示」のどちらかを選びYES•ENTER/MENUボタンを押して決定します。

表示窓のバックライトをつける／消す

表示窓のバックライトを常に点灯させる／点灯させないの設定をすることができます。

1 停止中または再生中に、メニュー操作（49ページ）で「各種設定」－「バックライト設定」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して「点灯」または「消灯」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

ディスクモードを選ぶ（ディスクモード）

現行の録音用ディスクがブランクディスクのとき、そのディスクをHi-MD形式にするか、MD形式にするかを選ぶ機能です。
本機で録音したディスクを、Hi-MDに対応していない他の機器でお使いになる場合は、ディスクモードを「MD」に設定してください。

1 メニュー操作（49ページ）で「各種設定」－「ディスクモード」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して「Hi-MD」（お買い上げ時の設定）または「MD」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

ディスクモードを「Hi-MD」に設定したときは、本体表示窓に「Hi-MD」が点灯します。

ご注意

- Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いのときも、「ディスクモード」の設定で「MD」を選ぶことができますが、お使いになれる動作モードはHi-MDモードのみです。
- SonicStageソフトウェアで60/74/80分ディスクを初期化した場合、または60/74/80分のブランクディスクの動作モードを選んだ場合でも、そのブランクディスクを本機でお使いになるときの動作モードは、「ディスクモード」の設定に従います。

表示の言語を選択する

本体の表示窓に表示される言語を、日本語または英語に切り換えることができます。

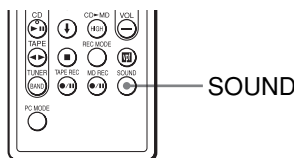
1 メニュー操作（49ページ）で「各種設定」－「表示言語」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して「日本語表示」または「英語表示」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

パソコンで入力したタイトルの表示方法を切り換える *（MDの場合のみ）*

MDモードでお使いの場合のみ切り換えることができます。Hi-MDモードでお使いの場合は、切り換えはできません。
MDモードの場合、表示方法は2種類あります。

- **漢字優先**：お買い上げの設定。通常はこちらにしておきます。
- **漢字カナ交互**：パソコンで文字入力時、全角エリアと半角エリアにそれぞれ違う情報（例：全角エリアに曲名、半角エリアに演奏者の名前など）を登録した場合などに選びます。両方の情報が表示されます。

「漢字カナ交互」にするには次の手順で切り換えてください。

1 メニュー操作（49ページ）で「各種設定」－「表示方式選択」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して「漢字カナ交互」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

設定を戻すには

手順2で「漢字優先」を選ぶ。

好みの音質で聞く

ちょっと一言

音質を調節しても 録音される音には影響ありません。

サウンド効果を楽しむ

SOUNDボタンを押す。
ボタンを押すごとに表示が切り換わります。
希望の音質を選んでください。

表示	音質
	ロックなどに。 重低音と高音域を増強し、メリハリのきいた迫力のサウンドになります。
	ポップスなどに。 中、高音域を強調し、軽やかで明るい感じになります。
	ジャズなどに。 低音をはっきりさせ、ずっしりとした音質になります。
	ボーカルを聞きたいときに。 中音域が強調され、ボーカルをきわだたせます。
	クラシックなどに。 ダイナミックレンジの広い音楽を聞くときに適しています。

メニュー操作で選ぶこともできます。

1 メニュー操作（49ページ）で「サウンド」－「プリセットイコライザ」を選ぶ。

2 ↑または↓ボタンを押して希望の音質を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

次のページへつづく

臨場感のある音を楽しむ

vpt*ボタンを押す。

vpt表示中にvptボタンを押すたびに次のように設定が変わります。

SURROUND → WIDE → OFF

* vpt = Virtal phone technology

メニュー操作で選ぶこともできます。

1 メニュー操作（49ページ）で「サウンド」－「VPT」を選ぶ。

2 ⬆または⬇ボタンを押して「SURROUND」または「WIDE」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

通常の音に戻すには手順2で「OFF」を選びます。

スピーカーの音質特性を変える

本機のスピーカーシステムは、デジタルリニアフェーズ*を採用、位相ずれのない優れた音像定位特性を実現しました。サイズを超えた音質を楽しむことができます。

* スピーカーシステムがもつ音圧周波数特性や位相特性の乱れ、ユニットレイアウトで発生する遅延時間差などを、vpt（Virtual phone technology）を応用したデジタル信号処理技術により補正するシステムです。

タイプA

フラットな帯域を実現、ポップスからクラシックまで幅広いジャンルに最適です。

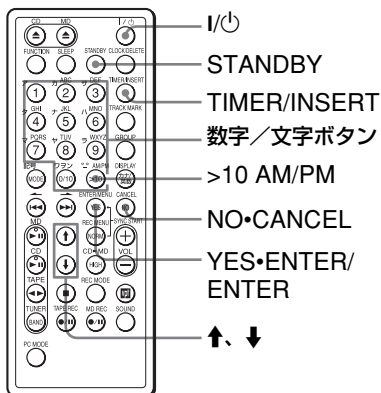
タイプB

中高域の雰囲気を高めた音造りを実現、ボーカル中心の曲に最適です。

タイプC

中高域の余韻を強調した音造りを実現、ジャズなど雰囲気を楽しむ曲に最適です。

1 **メニュー操作（49ページ）で「各種設定」－「リニアフェーズ」を選ぶ。**

2 **⬆または⬇ボタンを押して「タイプA」、「タイプB」または「タイプC」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。**

ご注意

ヘッドホンでお聞きになるときは、リニアフェーズの効果はあらわれません。

音楽で目覚める

(目覚ましタイマー)

タイマー機能を使って、本機を目覚まし代わりにすることができます。時計を合わせてから操作してください(24ページ)。

操作の前に、表示窓に「Timer」または「TimerREC」が出ていたら、STANDBYボタンを押して消します。

1 聞きたい音源の準備をする。

音源	準備
MD	MDを入れる。
CD	CDを入れる。
テープ	テープを入れる。
ラジオ	プリセット受信する。
LINE IN	LINE INにつないだ機器の電源を入れる。

2 TIMER/INSERTボタンを押す。

このあと、表示窓で確認しながら設定していきます。

3 ⬆または⬇ボタンを押して「タイマー再生」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

4 ⬆または⬇ボタンを押して聞きたい音源(「MD Play」、「CD Play」、「TAPE Play」、「TUNER」、「LINE」)を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

5 再生を始める時刻を設定する。

① 数字/文字ボタンの>10 AM/PMボタンを押して「AM」か「PM」を合わせる。

② 数字/文字ボタンを「時」「分」の順に押す。
例)6:45のときは、6→4→5の順に押します。

③ YES•ENTER/MENUボタンを押す。

6 同じように再生を止める時刻を設定する。

7 ◀━または━▶ボタンを押して希望の音量を表示させ、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

次のページへつづく

タイマー

音楽で目覚める（目覚ましタイマー）（つづき）

8 STANDBYボタンを押す。

「Timer」が表示され予約待機状態になります。設定した時刻になると自動的に再生が始まり、終了時刻になると電源が切れ、再び予約待機状態に戻ります。

予約した内容を確かめたり、変更する

TIMER/INSERTボタンを押してから、YES•ENTER/MENUボタンを押します。押すたびに設定した順に予約内容が表示されます。変更したい場合は、その内容を表示させてそこから手順8まで設定をやり直します。途中でSTANDBYボタンを押しても変更内容は記録されません。

予約したあとで他の音源を聞く

電源を入れれば、通常の操作ができます。
予約した時刻になる前に電源を切ります。電源を切っておかないとタイマー機能は働きません。

タイマー再生を途中で止める

I/⏻ボタンを押して電源を切ります。

ちょっと一言

- 設定を間違えたときは、NO•CANCELボタンを押します。最後に設定した内容が消えますので設定し直してください。
- 予約待機状態を取り消すには、STANDBYボタンを押して、表示窓の「Timer」を消します。
- 予約内容は別の設定をしない限り保持されます。
- ⏲は目覚しタイマーが動作中であることを示す表示です。

ご注意

目覚ましタイマーと録音タイマーは同時には予約できません。

タイマーを使って録音する（録音タイマー）

ラジオやつないだ機器の音を、タイマーを使って録音できます。留守中や深夜など、その場で録音できないときに便利です。
本機の時計を合わせてから操作してください（24ページ）。
操作の前に、表示窓に「Timer」または「TimerREC」が出ていたら、STANDBYボタンを押して消します。

1 録音したい音源の準備をする。

音源	準備
ラジオ	プリセット受信する。
LINE IN	LINE INにつないだ機器の電源を入れる。

2 録音用のMDまたはテープを入れる。

すでに録音してあるMDを入れたときは、録音してある部分の後ろに録音されます。
テープは録音したい面を上にして入れてください。

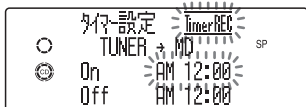
3 MDに録音するときは、ブランクディスクの場合はメニュー操作でディスクモードを「Hi-MD」か「MD」に設定する（90ページ）。また、REC MODEボタンを押して録音モードを選ぶ。

詳しくは30～31ページをご覧ください。

テープに録音するときは、「片面録音」か「両面録音」を選ぶ。

詳しくは83ページ、手順2、3をご覧ください。

4 TIMER/INSERTボタンを押す。

このあと、表示窓で確認しながら設定していきます。

5 ↑または↓ボタンを押して「タイマー録音」を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

6 ↑または↓ボタンを押して録音先（「TUNER→MD」、「TUNER→TAPE」、「LINE→MD」、「LINE→TAPE」、）を選び、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

7 録音を始める時刻を設定する。

① 数字／文字ボタンの>10 AM/PMボタンを押して「AM」か「PM」を合わせる。

② 数字／文字ボタンを「時」「分」の順に押す。

例）6:45のときは、6→4→5の順に押します。

③ YES•ENTER/MENUボタンを押す。

8 同じように録音を止める時刻を設定する。

9 ◀━または━▶ボタンを押して希望の音量を表示させ、YES•ENTER/MENUボタンを押して決定する。

10 STANDBYボタンを押す。

「TimerREC」が表示され予約待機状態になります。設定した時刻になると自動的に録音が始まり、終了時刻になると電源が切れ、再び予約待機状態に戻ります。

予約した内容を確かめたり変更するには

TIMER/INSERTボタンを押してから、YES•ENTER/MENUボタンを押します。押すたびに設定した順に予約内容が表示されます。変更したい場合は、その内容を表示させてそこから手順8まで設定をやり直します。途中でSTANDBYボタンを押しても変更内容は記録されません。

予約したあとで他の音源を聞くには

電源を入れれば、通常の操作ができます。予約した時刻の1分前には電源を切っておきます。電源を切っておかないとタイマー機能は働きません。

タイマー録音を途中で止めるには

I/⏻ボタンを押して電源を切ります。

ちょっと一言

- テープに両面録音（⇄）するときは、上の面から録音を始めてください。下の面（◀）から始めると下の面の終わりで録音が止まってしまいます。
- 設定を間違えたときは、NO•CANCELボタンを押します。最後に設定した内容が消えますので設定し直してください。

タイマー

次のページへつづく

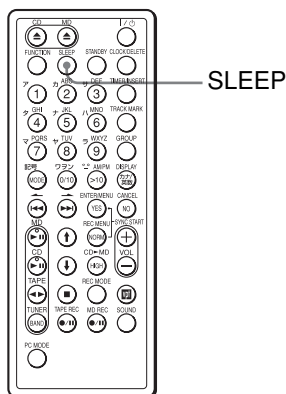
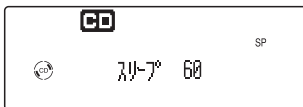
タイマーを使って録音する（録音タイマー）（つづき）

- 予約待機状態を取り消すには、STANDBYボタンを押して、表示窓の「Timer」または「TimerREC」を消します。
- 予約内容は別の設定をしない限り保持されます。
- ⏲は録音タイマーが動作中であることを示す表示です。
- 予約時間の1分前になると自動的に電源が入り、約2秒前に録音を開始します。
- 深夜や留守のときにタイマー録音する場合は、あらかじめ音量を低く設定するか、ヘッドホンを端子に差し込んでスピーカーから音が出ないようにします。

ご注意

録音タイマーと目覚ましタイマー（93ページ）は同時には予約できません。

音楽を聞きながら眠る（スリープタイマー）

指定した時間がたつと、自動的に電源が切れます。時間は10分、20分、30分、60分、90分、120分の中から選べます。音楽を聞きながら安心してお休みになれます。

1 聞きたい音楽の再生を始める。

2 SLEEPボタンを押して、「スリープ 60」を表示させる。

3 **SLEEPボタンを押して時間（分）を選ぶ。**

押すたびに「60」→「90」→「120」→「オフ」→「10」→「20」→「30」と変わります。

SLEEPボタンを押してから約4秒間そのままにすると、そのとき表示されている時間に設定されます。
表示窓のバックライト照明が消え、スリープ時間がカウントダウンを始めます。
指定した時間がたつと、自動的に電源が切れます。

スリープタイマーを途中で止める

SLEEPボタンを押して「スリープ オフ」を表示させます。

スリープ時間を変更する

手順2からやり直してください。

ちょっと一言

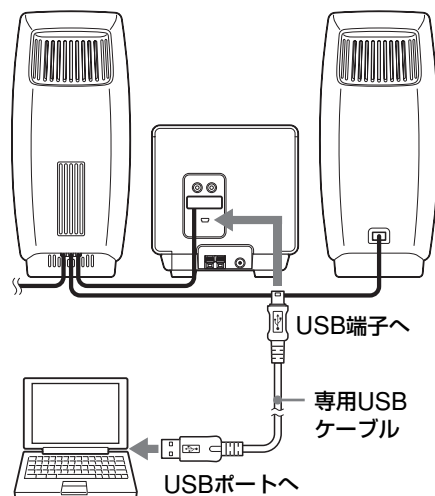
- 目覚ましタイマー（93ページ）とスリープタイマーを組み合わせて使うことができます。このときは、先に目覚ましタイマーを予約待機状態にしてから（93、94ページ）、電源を入れスリープタイマーをセットします。
- 目覚ましタイマーとスリープタイマーで違う音楽を聞くことができます。
- 目覚ましタイマーとスリープタイマーで違う音量を設定できます。たとえば、小さい音量で眠り、大きな音量で目覚めることができます。
- メニュー操作（49ページ）で「スリープ設定」を選び、⬆または⬇ボタンを押して時間（分）を選ぶこともできます。

パソコンとつないでできること

ご注意
本機をパソコンと接続して使うには、まず接続前に、必ず付属のCD-ROM を使用してソフトウェア「SonicStage」をインストールしてください。インストールのしかたとパソコンの動作環境については、別冊「ソフトウェアインストール・基本操作ガイド」をご覧ください。

本機をパソコンに接続すると以下のことができるようになります。

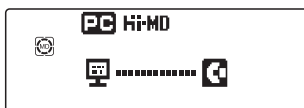
- 本機のMDとパソコンの間で音楽データを互いに転送する
  詳しい説明については、別冊「ソフトウェア　インストール・基本操作ガイド」またはSonicStageヘルプをご覧ください。
- つないだパソコンの音を聞く（99ページ）
- 音楽データ以外のデータをMDに保存する（100ページ）

ちょっと一言
本機に入れたHi-MDモードでお使いのディスクの曲をソフトウェア上で再生するとき、「Hi-MDディスクを再生すると、 音声はコンピュータのスピーカーから聞えます。」というメッセージが表示されますが、 本機のUSBスピーカー機能をお使いの場合は、本機につながっているスピーカーやヘッドホンから再生音が聞こえます。

パソコンに接続する

以下の手順で本機とパソコンをつないでください。

ご注意
専用USBケーブルを抜いたときやパソコンと接続中に本機で操作をしたとき、パソコンに「デバイスの取り外しの警告」というメッセージが表示されますが、問題はありません。「OK」をクリックして表示を消してください。

Windows ME/98SEをお使いの場合
本機のディスクモードが「Hi-MD」に設定されている状態（お買い上げ時の状態）でパソコンに接続し、60/74/80分のブランクディスクを入れると、何も録音/記録しなくてもHi-MD形式のディスクになることがあります。

1 **パソコンを起動する。**

2 **MD⏏を押して本機にMDを入れる。**
USBスピーカー機能のみをお使いになる場合は、この手順は必要ありません。

3 本機とパソコンを付属の専用USBケーブルでつなぐ。

4 PC MODEボタンを押す。

本機の表示窓が次のようになり、パソコンと正しく接続できたことを示します。

専用USBケーブルを抜くときは

1 BUSYランプが消えていることを確認する。
2 専用USBケーブルを抜く。

MDを取り出すときは

1 BUSYランプが消えていることを確認する。
2 MDを取り出す。

ご注意

- 本機の電源を入れたままでパソコンの電源を入れたり再起動したりすると、パソコンが起動しない場合があります。その場合は、本機の電源を切るか、専用USBケーブルを取り外してからパソコンを再起動してください。
- 本体のBUSYランプが点灯している間は、本機で操作したり、専用USBケーブルを取り外さないでください。
- パソコンとつないでお使いになるとき以外は、専用USBケーブルを取り外しておいてください。

ちょっと一言

表示窓に「MD」と表示されているときにパソコンに接続した場合は、手順4でPC MODEを押さなくても、表示が切り換わります。

つないだパソコンの音を聞く（USBスピーカー機能）

本機に入れたMDの曲やソフトウェアに取り込んだ曲などパソコンで再生した音を、パソコンで聞くのと同じように本機に接続したスピーカーで聞くことができます。

ご注意

- 接続したパソコンの特性により、再生中に雑音が入ったり、パソコンが正常に動作しないことがあります。
- Transmeta Crusoeプロセッサ搭載のパソコンでは、USBスピーカー機能が正常に動作しないことがあります。
- USBスピーカーとして再生中に、専用USBケーブルを抜いたり、電源を切らないでください。

1 パソコンの設定を確認する。

Windows XPでは

コントロールパネル→サウンドとオーディオデバイスのプロパティ→オーディオ タブ
→「音の再生　既定のデバイス：」に「CMT-AH10」と表示されていることを確認してください。

Windows 2000では

コントロールパネル→サウンドとマルチメディアのプロパティ→オーディオタブ
→「音の再生　優先するデバイス：」に「USBオーディオデバイス」と表示されていることを確認してください。

次のページへつづく

パソコンにつないで使う

つないだパソコンの音を聞く（USBスピーカー機能）（つづき）

Windows 98SE/MEでは
コントロールパネル→マルチメディア
→オーディオ
→「再生」で優先するデバイスが「USBオーディオデバイス」と表示されていることを確認してください。

2 パソコンで曲を再生する。

音量を調節するには

パソコンで調節します。
それでも音量が小さいときは、本機のVOLUME+または–ボタンを押して調節します。

音楽データ以外のデータをディスクに保存する *（データストレージ）*

Hi-MDモードでお使いのディスクが入っている状態で本機をパソコンにつなぐと、Windowsで外付けの記憶媒体として認識され、音楽データ以外のデータ（テキストデータや画像データなど）もディスクに保存することができます。
各ディスクの容量について詳しくは、次ページをご覧ください。

本機がパソコンに認識されているときは

Windowsのエクスプローラ上、または「マイコンピュータ」でドライブアイコン（「リム-バブルディスク（E：）を確認できます。（ドライブ名は、お使いのパソコンによって異なります。）
ハードディスクなどにコピーするときと同じように、ファイルやフォルダをドラッグ＆ドロップすることにより、データを記録できます。

ご注意

- SonicStageソフトウェアが起動しているときは、外部機器として認識されません。
- パソコンでディスクをフォーマット（初期化）するときは、必ずSonicStageソフトウェア上でフォーマットしてください。
- エクスプローラ上で、ファイル管理フォルダ（HMDHIFIフォルダ、HI-MD.INDフォルダ）を削除しないでください。

ディスク別ディスク容量（本体／SonicStageソフトウェアで初期化した場合）

ディスクの種類	総容量	ディスク管理容量*	空き容量
60分ディスク	219 MB （229,965,824バイト）	832 KB （851,968バイト）	218 MB （229,113,856バイト）
74分ディスク	270 MB （283,312,128バイト）	832 KB （851,968バイト）	269 MB （282,460,160バイト）
80分ディスク	291 MB （305,856,512バイト）	832 KB （851,968バイト）	290 MB （305,004,544バイト）
Hi-MDディスク	964 MB （1,011,613,696バイト）	832 KB （851,968バイト）	963 MB （1,010,761,728バイト）

* ディスク管理容量とは、ディスク内のファイルを管理している領域の容量です。
ディスク管理容量は、使用条件などによって容量が変化します。そのため、エクスプローラ上で表示される空き容量に対して、実際に使用できる空き容量が減少することがあります。

テレビ、ビデオなどの音を聞く

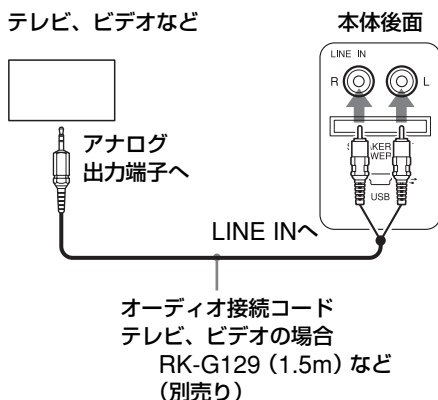
テレビ、ビデオの音を本機のスピーカーで聞いたり、本機のMDやテープにアナログ録音することができます。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
接続する前に、接続する機器と本機の電源を必ず切ってください。

オーディオ接続コード
テレビ、ビデオの場合
RK-G129（1.5m）など
（別売り）

1 別売りの接続コードを、接続する機器の出力端子と本機後面のLINE IN端子につなぐ。

2 電源を入れる。

3 FUNCTIONボタンを押して「LINE」を表示させる。

これで接続した機器の音を本機のスピーカーで再生できます。

ちょっと一言

つないだ機器の音を録音するには、「マニュアル録音」（45、85ページ）をご覧ください。

つないだ機器の音が大きすぎるときやひずむときは

MODEボタンを繰り返し押して、「入力感度　低」を表示させてください。または、つないだ機器の音量を調整してください。

故障かな?と思ったら

本機をご使用中にトラブルが発生した場合は、サービス窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れにしたがってチェックしてみてください。(メッセージ一覧(110～116ページ)も合わせてご覧ください。)メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1　本書で調べる

この「故障かな?と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
また、本書の手順の中や「メッセージ一覧」にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。

手順2
「パーソナルオーディオ・カスタマーサポート」のホームページで調べる。

http://www.sony.co.jp/support-pa/で調べる。
最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。

手順3　それでもトラブルが解決しないときは

お客さまご相談センターまたはお買い上げ店にご相談ください。

- 型名:CMT-AH10
- 製造(シリアル)番号:記載位置については、別紙「カスタマー登録のご案内」をご覧ください。
- ご相談内容:
- 表示されたエラーメッセージ:
- トラブルが発生した状況:
- 使用したCD:
- 使用したMD:
- 使用したテープ:

次のページへつづく

共　通

症状	チェック項目
音が出ない。	• I/⏻ボタンを押して電源を入れる。 • 電源コードのプラグをコンセントにしっかり差し込む。 • 音量を調節する。 • スピーカーで聞くときは、ヘッドホンを🎧端子から抜く。 • 「Reading」が消えるまで待つ。 • PC MODEボタンが押されてUSBスピーカー機能が働いている。 → PC MODEボタンを押す。(99ページ) • 専用スピーカー接続コードをしっかりと差し込む。
雑音が入る。	• 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している。 → 携帯電話などを本機から離して使用する。

CD部

症状	チェック項目
8cmCDが再生できない。 取り出せない。	• 8cmCDが入っているのに「ディスクが入っていません」表示が出て再生できなかったり、8cmCDを取り出すことができなかったりすることがあります。その場合には、PC MODEボタンを押したままTUNE－ボタン、CANCELボタン、ENTERボタンの順に押してください。設定がリセットされるので、そのあとCD⏏ボタンを押します。
ディスクの1曲目から再生しない。	• リジューム再生機能が働いている。 → メニュー操作で「各種設定」－「リジューム」－「リジュームオフ」を選ぶ(59ページ)。 • メイン再生モードで「通常再生」以外のモードが選ばれている。または、サブ再生モードで通常再生以外のモードが選ばれている。 → メイン再生モードで「通常再生」を選ぶ。サブ再生モードで通常再生を選ぶ(60ページ)。 • 「リピート再生」が選ばれている。 → リモコンのMODEボタンを「⮌」が消えるまで押しつづける。(64ページ)。

症状	チェック項目
CDが入っているのに「読み込みエラーです」が表示される。	• CDの汚れがひどい。 → クリーニングする。（118ページ） • レンズに露（水滴）がついている。 → CDを取り出してフロントパネルを開けたまま数時間置く。 • ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R/CD-RWディスクは再生できません。 • CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。 • 著作権保護技術付音楽ディスクは、再生できない場合があります。（10ページ）
音がとぶ。 雑音が入る。	• CDによっては音がとぶことがあります。音量を下げてください。 • CDの汚れがひどい。 → クリーニングする。（118ページ） • CDに傷がある。 → CDを取り換える。 • 振動のない場所に置く。 • CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生された音がとんだり雑音が入ることがあります。

MD部

症状	チェック項目
「録音エラーです」、「読み込みエラーです」、「TOCデータに異常が有ります」が表示され、操作を受けつけない。	• MDが汚れているか損傷している。 → 新しいMDと交換する。
再生できない。	• 内部のレンズに露（水滴）がついている。 → MDを取り出してフロントパネルを開けたまま数時間置く。 • MDを入れる向きが違う。 → MDのラベル面を上にして入れる。 → MDを矢印の向きに入れる。 • 何も録音されていないMDが入っている。（「ブランクディスクです」または「何も録音されていません」が表示されている） → 録音済みのMDと交換する。
他の機器でディスクが再生できない。	• Hi-MDに対応していない機器で再生しようとした。 → Hi-MDディスクはHi-MD対応の機器でのみ再生することができます。

困ったときは

次のページへつづく

症状	チェック項目
ディスクの1曲目から再生しない。	• リジューム再生機能が働いている。 → メニュー操作で「各種設定」－「リジューム」－「リジュームオフ」を選ぶ(59ページ)。 • メイン再生モードで「通常再生」以外のモードが選ばれている。または、サブ再生モードで通常再生以外のモードが選ばれている。 → メイン再生モードで「通常再生」を選ぶ。サブ再生モードで通常再生を選ぶ(60ページ)。 • 「リピート再生」が選ばれている。 → リモコンのMODEボタンを「 」が消えるまで押しつづける。(64ページ)。
録音できない。	• MDが誤消去防止状態になっている。(118ページ) → MDの誤消去防止つまみを戻して孔を閉じる。 • 再生専用MDが入っている。(「再生専用ディスクです」が表示されている) → 録音用MDと交換する。 • MDの録音できる残り時間が足りない。(「ディスク容量が一杯です」が表示されている) → 不要な曲を消すか、別のMDと交換する。 • 録音中や「システムファイルの書込み中です」表示中に停電があった、または電源コードのプラグがコンセントから抜かれた。 → 初めから録音し直す。 • CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、MDに録音できない場合があります。
高速録音できない。	• 一度高速録音した曲は、その後74分間は高速録音できません。(123ページ) • MDの録音できる残り時間が1曲分ないため、高速録音はできません。(「ディスク容量が一杯です」が表示されている)
録音した音がとぶ。 録音した音に雑音が入る。	• 録音したときの音量が大きかった。 → 音量を下げて録音する。 • 汚れがひどいCDを高速で録音した。 → 通常の速度で録音してください。
高速録音したはずの曲が 録音できていない。	• 曲の途中で録音を止めると、その曲は録音されません。
他機種で編集ができない。	• Hi-MDやMDLP録音モードに対応していない機器で編集しようとした。 → 本機、または他のHi-MDまたはMDLPモードに対応している機器で編集してください。
録音時、瞬間的なノイズが発生する。	• LP4ステレオ録音では、圧縮方式の特性上、録音元の音源によっては、ごくまれに瞬間的なノイズが発生する。 → ステレオ録音またはLP2ステレオ録音を行う。

テープ部

症状	チェック項目
操作ボタンを押してもテープが動かない。	• カセットぶたをきちんと閉める。
前の録音が完全に消えない。	• 消去ヘッドをクリーニングする。(119ページ) • TYPEII(ハイポジション)またはTYPEIV(メタル)テープはお使いになれません。TYPEI(ノーマル)テープをお使いください。
録音できない。	• テープを正しく入れる。 • デッキに入れたテープのツメが折れていたら、穴をセロハンテープなどでふさぐ。(119ページ)
雑音が多い。 音質がよくない。	• ヘッド、ピンチローラー、キャプスタンをクリーニングする。(119ページ) • ヘッドイレーサー・クリーナーを使ってヘッドを消磁する。(119ページ)
音が歪む。	• TYPEII(ハイポジション)またはTYPEIV(メタル)テープはお使いになれません。TYPEI(ノーマル)テープをお使いください。

ラジオ部

症状	チェック項目
FM受信時、ステレオにならない。	• MODEボタンを押して、「ステレオ受信」を表示させる。 • ステレオ放送のときのみステレオで聞くことができます。
雑音が入る。	• FMステレオ放送を受信しているときは、受信状態によっては雑音が多くなります。(44ページ) • テレビの近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。また、室内アンテナを使用しているテレビの近くで、本機でFM放送を聞くと、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機をテレビから離してください。 • AM放送受信時にリモコンで操作すると、雑音が入ることがあります。 • このラジオ(チューナー)のテレビ音声回路はFM放送の受信回路と兼用になっています。このため一部の地域ではテレビ2または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。その場合にはお近くのサービス窓口にご相談ください。

次のページへつづく

パソコンとの接続

症状	チェック項目
パソコンから音が出ない。	• パソコンと接続中は、本機につないだスピーカーまたはヘッドホンから音が再生されます。 → PC MODEボタンを押し、本機の表示窓でパソコンと接続されている表示が消えたことをを確認する。(99ページ)
パソコンの再生音が小さい。	• パソコンの音量を最大(MAX)にする。
パソコンに接続したとき、 本機がパソコンに認識されない。	• パソコン側のUSBケーブルが抜けている。 → USBケーブルを挿し直してください。 • 付属のCD-ROMを使ってソフトウェア「SonicStage」をインストールしてください。 → 詳しくは別冊「ソフトウェア　インストール・基本操作ガイド」をご覧ください。
本機の表示窓では、パソコンと接続されている表示が出ている(99ページ)のに、SonicStageソフトウェアが本機を認識しない。	• USBケーブルを挿し直して、SonicStageを再起動してください。
接続中の動作が不安定。	• USBハブ、またはUSB延長ケーブルを使用している。 → 動作の保証はできません。付属の専用USBケーブルのみで直接パソコンと接続してください。
音楽データ以外のデータを保存できない。	• SonicStageソフトウェアが起動している。 → SonicStageソフトウェアを終了してから操作してください。 • MDモードでお使いのディスクに保存しようとしている。 → Hi-MDモードのディスクと交換する。

タイマー(時計)部

症状	チェック項目
タイマーが働かない。	• 時計を正しい時刻に合わせる。(24ページ) • 停電があった。 • 「Timer」または「TimerREC」表示が出ていることを確認する。(94、95ページ) • タイマーの開始時刻と終了時刻が同じになっている。 → 設定時刻を合わせ直す。 • 録音タイマー予約待機中は、予約時刻の1分前までに電源を切ってください。 • 目覚ましタイマー予約待機中は、予約時刻の前には電源を切ってください。

リモコン

症状	チェック項目
リモコンで操作ができない。	• リモコンの電池が消耗していたら、新しいものと交換する。（23ページ） • リモコンを本体のリモコン受光部へ向けて操作する。 • 本体とリモコンの間に障害物があったら、取り除く。 • 本体リモコン受光部に強い光（直射日光や高周波点灯の蛍光灯など）が当たっていたら、当たらないようにする。

本機はマイコンを使用し、各連係動作を行っています。そのため、電源事情その他により、動作が不安定になることがあります。**上記のチェック項目を確認しても動作が正常でないときは、PC MODEボタンを押したままTUNE－ボタン、CANCELボタン、ENTERボタンの順に押してください。設定がリセットされます。**（時計やタイマーがお買い上げ時の設定になりますので、必要に応じて設定し直してください。）それでも正常に動かないときは、電源コードを抜いて、2時間以上そのままにし、その後に電源コードをつなぎなおしてください。
以上を試してもまだ正しく動かないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

メッセージ一覧

表示窓にメッセージが出たら、下の表にしたがってチェックしてみてください。

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
アーティスト名が入力されていません	NO NAME	アーティスト名がついている曲が入っていないディスクで、メイン再生モードをアーティスト再生にした。アーティスト名がついている曲が入っていないディスクで、曲の検索中に「アーティスト検索」を選ぼうとした。	—
アルバム名が入力されていません	NO TITLE	アルバム名がついている曲が入っていないディスクで、メイン再生モードをアルバム再生にした。アルバム名がついている曲が入っていないディスクで、曲の検索中に「アルバム検索」を選ぼうとした。	—
エラーです	ERROR	内部システムが誤動作している。	PC MODEボタンを押したままTUNE－ボタン、CANCELボタン、ENTERボタンの順に押してください。設定がリセットされます。
温度上昇し過ぎたため録音停止しました	TEMP OVER REC STOP	録音／編集中、本機の温度が高くなりすぎたため、録音／編集を停止した。	本機をしばらく休ませて涼しい状態になってからお使いください。
キャンセルします	CANCEL	操作を中止した。	—
曲が選択されていません	NO TRACK IS SELECTED	停止中に▶▶|ボタンを押してディスクの最後まで到達した状態で「曲移動」、「1曲消去」を選んだ、または曲名をつけようとした。	編集したい曲を選んだ状態で、もう一度操作してください。

表示(日本語)	表示(英語)	意味	対策
曲数制限を 超えています	TRACK FULL	曲番の合計が、Hi-MDモードでお使いのディスクで2,047、MDモードでお使いのディスクで254を超える曲数を録音しようとした。	曲番を削除して2,047(Hi-MDモード)または254(MDモード)以下にしてください。
曲を削除して良いですか? ↓ はい:ENTER いいえ:CANCEL を押してください	Erase OK? ↓ PUSH YES:ENTER NO:CANCEL	曲を消去しようとした。	消去する場合はYES•ENTER/MENUを押します。
グループが ありません	NO GROUP	グループ設定されていないディスクで、グループを消去(78ページ)または解除(75ページ)しようとした。	グループ設定されているディスクを入れてください。
グループ制限数を 超えています	GROUP FULL	Hi-MDモードでお使いのディスクで256個め、MDモードでお使いのディスクで100個めのグループを作ろうとした。	グループはHi-MDモードでお使いのディスクでは255個、MDモードでお使いのディスクでは99個まで作れます。255個または99個以内でグループを作ってください。
グループ設定 されていない 曲です	NON GROUPED TRACK	停止中や再生中、グループに入っていない曲を選んだ状態で、「グループ移動」、「グループ消去」を選んだ、またはグループ名をつけようとした。	編集したいグループ内の曲を選んだ状態で、もう一度操作してください。
グループを 解除して 良いですか? ↓ はい:ENTER いいえ:CANCEL を押してください	Group RELEASE OK? ↓ PUSH YES:ENTER NO:CANCEL	グループ解除しようとした。	解除する場合はYES•ENTER/MENUを押します。

次のページへつづく

メッセージ一覧（つづき）

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
グループを削除して良いですか? ↓ はい:ENTER いいえ:CANCEL を押してください	Group Erase OK? ↓ PUSH YES:ENTER NO:CANCEL	グループを消去しようとした。	消去する場合はYES•ENTER/MENUを押します。
これ以降の曲はありません	End	停止中に▶▶❙ボタンを押して、ディスクの最後まで到達したときにDISPLAYボタンを押した。	—
再生専用ディスクです	P/B ONLY DISC	再生専用ディスクに録音・編集しようとした。	録音用ディスクと取り換えてください。
再生できないトラックです	CANNOT PLAY	再生に制限のあるコンテンツを再生しようとした。	—
システムファイルの書込み中です	SYSTEM FILE WRITING	録音した情報（曲の開始・終了位置など）をディスクに記録している。	しばらく待ってください（衝撃を与えたり、電源を抜いたりしない）。
しばらくお待ちください	BUSY WAIT A MOMENT	ディスクの情報を読んでいる。録音または編集の内容の処理をしている。	しばらく待ってください。まれに1分ほどかかる場合があります。
使用できないディスクです	FORMAT ERROR DISC	Hi-MD AUDIOとして本機が対応していないフォーマットのディスクが挿入された。 パソコンで初期化されたディスクが挿入された。	MDまたはHi-MDフォーマットのディスクを挿入してください。 パソコンで初期化するときは、必ずソフトウェアSonicStageを使って初期化してください。
全ての曲を削除して良いですか? ↓ はい:ENTER いいえ:CANCEL を押してください	ALL TRACK Erase OK? ↓ PUSH YES:ENTER NO:CANCEL	すべての曲を消去しようとしている。	消去する場合はYES•ENTER/MENUを押します。

表示(日本語)	表示(英語)	意味	対策
操作 できません	CANNOT OPERATE	リモコンでプログラム設定中にグループの頭出しをしようとした。	—
ディスクが 誤消去防止 状態です	PROTECTED DISC	ディスクが誤消去防止状態になっている。	誤消去防止つまみを戻してください(118ページ)。
ディスクが 入って いません	NO DISC	CDまたはMDが入っていない。	CDまたはMDを入れてください。
ディスク容量が 一杯です	DISC FULL	ディスクの残り時間が48秒以下の場合、録音できないことがある(録音時)。 録音中にディスクの最後まで録音された。	他の録音用ディスクと取り換えてください。
テープが 誤消去防止 状態です	PROTECTED TAPE	テープのツメが折れている。	そのテープに録音したいときは、穴をセロハンテープなどでふさぎます(119ページ)。
テープが 入って いません	NO TAPE	テープが入っていない。	テープを入れてください。
デジタル録音は できません	CANNOT DIGITAL COPY	シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)によりダビングは禁止されている(123ページ)。	—
時計が 設定されて いません	NO CLOCK SET	時計設定されていない状態でSTANDBYまたはTIMER/INSERTボタンを押した。	時計設定をしてください(24ページ)。
トラックマークを 消しました	MARK OFF	トラックマークを削除した。	—
トラックマークを つけました	MARK ON	トラックマークをつけた。	—

次のページへつづく

メッセージ一覧(つづき)

表示(日本語)	表示(英語)	意味	対策
何も録音されていません	NO TRACK	何も録音されていないディスクを再生しようとした。	録音済みのディスクを入れてください。
並び替え中です	SORTING	並べ替えが実行中です。	しばらく待ってください(衝撃を与えたり、電源を抜いたりしない)。
ブックマークされている曲がありません	NO BOOKMARK TRACK	ブックマークがついていないディスクでブックマーク再生をしようとした。	ブックマークをつけてから(62ページ)操作してください。
ブックマーク登録を解除しました	✐:OFF	ブックマークを消去した。	—
ブックマーク登録しました	✐:ON	ブックマークを登録した。	—
ブランクディスクです	BLANKDISC	何も録音されていない60/74/80分MDディスクが入っている。	—
プレイリストがありません	NO PLAYLIST	プレイリストがないCDでメイン再生モードをプレイリストにしようとした。	プレイリストのあるMP3CDを入れてください。
編集操作はできません	CANNOT EDIT	再生中に曲の切れ目にトラックマークをつけようとした(80ページ)。 録音モードの異なる曲を1つにつなげようとした(80ページ)。 SonicStageで入力した全角文字を含む名前を、本機で編集しようとした。	—
編集中です	EDITING	—	—

表示(日本語)	表示(英語)	意味	対策
文字数制限を超えています	TITLE FULL	曲名やグループ名、ディスク名を200文字を越えて入力しようとした。曲名、グループ名、アーティスト名、アルバム名、ディスク名を、合計約55,000文字(Hi-MDモードの場合)または約1,700文字(MDモードの場合)を越えて入力しようとした。	ディスク名、グループ名、アーティスト名、アルバム名、曲名を短くして入力してください(71～73ページ)。
読み込みエラーです	READ ERROR	ディスクの情報を正しく読み取れなかった。	ディスクを入れ直してください。
リジュームオフ	RESUME OFF	リジューム再生機能をオフにした。	—
リジュームオン	RESUME ON	リジューム再生機能をオンにした。	—
録音エラーです	REC ERROR	正しく録音できなかった。	振動のない場所に本機を設置し、録音をやり直してください。
		ディスクにひどい汚れ(油膜、指のあとなど)や傷がある、またはディスクが規格外である。	ディスクを交換して録音をやり直してください。
		録音中、本機の温度が高くなりすぎたため、録音を停止した。	本機をしばらく休ませて涼しい状態になってからお使いください。
録音•再生ができないディスクです	CANNOT RECORD OR PLAY	PCストレージとして使用可能だが、録音・再生ができないディスクが挿入された。	—
MDを取り出してください	REMOVE MD	⏏ボタンを押した後、MDを取り出していない状態でもう一度MDの⏏ボタンを押した。	—
録音時間が不足しています	SHORT REC TIME	録音残り時間が1曲分ない状態で高速ダビングしようとした。	

次のページへつづく

メッセージ一覧（つづき）

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
録音できません	CANNOT COPY	サブ再生モードが「シャッフル」でCDをまるごと録音しようとした。 オーディオトラック（CDDAフォーマット）以外の曲を録音しようとした。 オーディオトラック以外のフォーマットの曲を含むディスクは録音できません。	—
CDが入っていません	NO CD	CDが入っていない状態で録音しようとした。	CDを入れてください。
MDが入っていません	NO MD	MDが入っていない状態で録音しようとした。	MDを入れてください。
PC転送・録音曲を削除して良いですか? ↓ はい:ENTER いいえ:CANCEL を押してください	TRK FROM PC Erase OK? ↓ PUSH YES:ENTER NO:CANCEL	パソコンから転送した曲を削除しようとした。	削除する場合は、YES•ENTER/MENUボタンを押します。 曲の権利が失われる場合があるのでご注意ください（78ページ）。
PC転送・録音した曲は編集できません	TRK FROM PC NO EDIT	パソコンから転送した曲を、分けたりつなげたりしようとした。	パソコンから転送した曲を、本機で分けたりつなげたりすることはできません。
TOCデータに異常があります	TOC DATA ERROR	ディスク情報を正しく読み取れなかった。	他のディスクを入れてください。ディスクの内容を全て削除してよいときは、記録されている内容を全て削除してください。

使用上のご注意

共　通

取り扱いについて

- 本機と他の機器をつないで使う際は、接続コード類に足などを引っ掛けないようご注意ください。
- フロントパネルを上げたまま放置しないでください。内部にゴミやほこりが入り、故障の原因になることがあります。
- 本機に付属のスピーカーには強力な磁石を使っています。次のようなものは本機のそばに置かないでください。磁気が変化して不具合がおきることがあります。
  – 時計
  – クレジットカードなどの磁気カード
  – カセットテープ、ビデオテープなどの磁気テープ

  また、テレビやモニターの画像が乱れる場合は、スピーカーを離してお使いください。

結露について

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなってからご使用ください。結露時のご使用は機器の故障の原因となる場合があります。

本体を持ち運ぶときのご注意

電源を切り、電源コードを抜いてください。

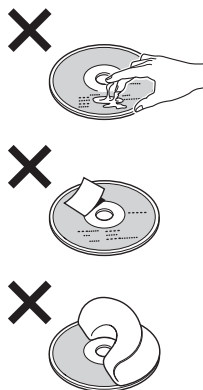
本体のお手入れのしかた

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、から拭きします。
シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

CD部

CDについて

本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

CDの取り扱いかた

- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないように持ちます。
- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。

- 長時間再生しないときは、ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねて置いたり、ななめに立てかけておくとそりの原因になります。

こんなディスクは使わないでください

- 中古やレンタルCDでシールなどののりがはみ出したり、シールをはがしたあとにのりが付着しているもの。
  また、ラベル面に印刷されているインクにべたつきのあるもの。

- レンタルCDでシールなどがめくれているもの。

- お手持ちのディスクに飾り用のラベルやシールを貼ったもの。

次のような故障の原因となったり、大切なディスクにもダメージを与えることがあります。

—ラベルやシールが本機内ではがれ、ディスクが取り出せなくなります。
—高温によってラベルやシールが収縮してディスクが湾曲してしまうため、信号の読み取りができなくなります。（再生できない、音とびがするなど）

次のページへつづく

使用上のご注意（つづき）

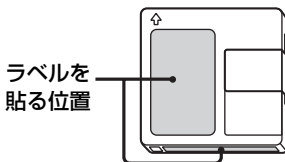
CDのお手入れのしかた

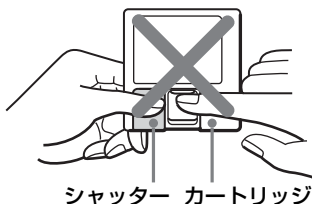
- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので、使わないでください。

MD部

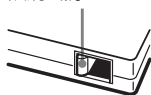
MDの取り扱いかた

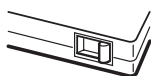
MDはカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことをご注意ください。

内部のディスクに直接触れないでください

シャッターを無理に開けようとすると、こわれることがあります。シャッターが開いてしまった場合はすぐに閉めてください。

ラベルは所定の場所に貼ってください

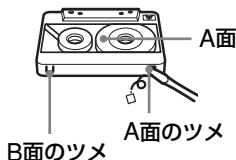
MDに付属のラベルは、シャッターの周りなど所定以外の場所には貼らないでください。必ずラベル用のくぼみに貼ってください。所定以外の場所に貼ると、ディスクが取り出せなくなることがあります。

MDのお手入れのしかた

定期的にカートリッジ表面についたほこりやゴミを乾いた布で拭き取ってください。

録音内容を間違って消さないために

誤消去防止つまみをずらして、孔の開いた状態にします。
再び録音するときは、つまみを元に戻します。

テープ部

大切な録音を守るー誤消去防止

ツメを折ると録音できなくなるので、誤って録音内容を消してしまうミスが防げます。ツメを折っても穴をセロハンテープなどでふさげば再び録音できます。

長時間テープをお使いのときは

90分を越えるテープは長時間使用には便利ですが、薄く伸びやすいテープです。こきざみな走行、停止、早送り、巻戻しなどを繰り返すと、テープが機械に巻き込まれる場合がありますので、ご注意ください。

ヘッド部のクリーニング

長い間使っていると、ヘッドが汚れてきて音が悪くなったり、途切れたり、あるいは録音ができなくなったりすることがあります。よりよい音でステレオ録音、再生を楽しむために、10時間程度使ったら、市販の綿棒とクリーニング液でヘッド、キャプスタン、ピンチローラーをきれいにしてください。

録音/再生ヘッドの消磁

長い間使っていたり、録音/再生ヘッドに磁気を帯びたドライバーなどが触れたりすると、ヘッドが磁化され、そのまま録音や再生をするとボソボソという雑音が入ります。このようなときは、市販のヘッド消磁器を使って録音／再生ヘッドを消磁してください。

主な仕様

CDプレーヤー部

型式	コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数	2チャンネル
ワウフラッター	測定限界以下（JEITA*）
周波数特性	20～20,000Hz+1/－2dB（JEITA*）

MDデッキ部

型式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
ディスク	ミニディスク
記録方式	磁界変調オーバーライト方式
再生読み取り方式	非接触光学読み取り（半導体レーザー使用）
レーザー	半導体レーザー（λ＝790nm）
録音再生時間	HMD1G（1GB）使用時： ステレオ最大34時間（Hi-LP） MDW-80をHi-MDモードで使用時： ステレオ最大 10時間10分（Hi-LP） MDW-80をMDモードで使用時： モノラル最大 160分（再生のみ） ステレオ最大 320分（LP4）
回転数	約350rpm～3600rpm（CLV及びCAV）
エラー訂正方式	Hi-MD： LDC (Long Distance Code)／BIS (Burst Indicator Subcode) MD： ACIRC (Advanced Cross Interleave Reed Solomon Code)
サンプリング周波数	44.1kHz

その他

次のページへつづく

主な仕様（つづき）

コーディング	Hi-MD： リニアPCM (44.1 kHz/16 bit) — PCM ATRAC3plus (Adaptive TRansform Acoustic Coding 3 plus) — Hi-SP/Hi-LP MD： ATRAC ATRAC3 — LP2/LP4
変調方式	Hi-MD： 1-7RLL (Run Length Limited)/PRML (Partial Response Maximum Likelihood) MD: EFM (Eight to Fourteen Modulation)
チャンネル数	ステレオ2チャンネル
周波数特性	20〜20,000Hz+1/−1dB
ワウフラッター	測定限界以下

チューナー部

受信周波数	FM: 76 − 90MHz TV: 1 – 3 ch AM: 531 − 1,629kHz
アンテナ	FM: リードアンテナ AM: ループアンテナ

カセットデッキ部

トラック方式	4トラック2チャンネル
早巻き時間	約2分（ソニーカセットテープC-60使用）
周波数範囲	TYPE I（ノーマル）カセット 70 − 13,000Hz

スピーカー部

型式	2 wayパッシブラジエータ型
使用スピーカー	フルレンジ：直径100mm トゥイーター：直径25mm パッシブラジエーター： 100 mm
最大外形寸法	約140×302×208mm （幅×高さ×奥行き） （最大突起部を含む） （JEITA*）
質量	左スピーカー：約2.0 kg 右スピーカー：約4.25 kg
実用最大出力	25W + 25W（JEITA*/6Ω）

共通部

入出力端子	USB
出力端子	♎(ヘッドホン)（ステレオミニジャック）1個 負荷インピーダンス 16〜68Ω SPEAKER OUT (POWER IN)1個
入力端子	LINE IN1個
電源	本体： 家庭用電源（AC100V 50/60Hz） リモコン部： リチウム電池　1個使用（DC3V）
消費電力	45W
最大外形寸法	約144×153×180mm （幅×高さ×奥行き） （最大突起部を含む） （JEITA*）
質量	約2.2kg

使用可能なディスク

CD-DA、CD-RW、CD-R、CD Extra、CD TEXT

ディスク径　　12 cm／8 cm

別売りアクセサリー

ステレオヘッドホン

MDRヘッドホンシリーズ

本機はドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品です。

本機はFraunhofer IIS及びThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

保証書とアフターサービス

保証書

所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
なお、サービス（修理）を依頼されるときは、CMT-AH10本体と電源部である右スピーカーユニットを、必ず一緒にお持ちください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンポーネントシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

解説

ここでは、ミニディスクについての技術用語やシステム上の制約について解説します。

「システムファイル」とは

音声以外の情報を記録する、ミニディスク上の領域を指し、TOC（Table Of Contents）ともいいます。どの曲が何曲目でディスクのどこにあるかなどを記録しています。ミニディスクが本だとすると、索引や目次にあたります。
録音やトラックマークの記録・削除、曲の移動などの際、本機はシステムファイルの書き換え作業を行います（「システムファイルの書込み中です」が表示されます）。この間はディスクへの記録をしていますので、衝撃を与えたり、電源を抜いたりしないでください。記録が正しく行われないばかりか、ディスクの内容が失われることがあります。

Hi-MDとは

Hi-MDとは、新しいミニディスクのフォーマットです。
従来のミニディスクから、ディスクの記録方式を変え、更に長時間の録音が可能になりました。また、パソコンの外部機器として、音楽データ以外のデータ（例えば、テキストデータや画像データ）もミニディスクに記憶することができるようになりました。

ATRAC3plusとは

ATRAC3plusとは、ATRAC3を更に発展させたオーディオ圧縮技術です。
これまでのATRAC3（本機のLP2/LP4ステレオモード）の圧縮率が、CDの1/10だったのに対し、ATRAC3plus（本機のHi-SP/Hi-LPステレオモード）はCDをベースに比較すると、1/20という高い圧縮率かつ高音質を実現しています。

次のページへつづく

Hi-MDモードとMDモードとは

本機は「Hi-MDモード」と「MDモード」の2つのモードを持ち、挿入されたディスクのモードを自動的に判別します。ブランクディスクが本機に挿入されたときは、どちらのモードで録音するかを選択することができます（Hi-MD規格専用1GBディスクを除く）。メニューのディスクモードの設定（66ページ）を「Hi-MD」または「MD」に設定して録音してください。

リニアPCMとは

デジタル圧縮しない音声記録方式です。この方式で録音すると、MDでもCDと同じ音質を楽しむことができます。

Net MDとは

OpenMGとMagicGateによる高度な著作権保護技術を用いて、パソコンとMD機器をUSB（Universal Serial Bus）ケーブルで接続し、パソコンの音楽データをMD機器に高速転送することができるフォーマットです。MDへの記録方法は、従来から変更がないため、既存のディスクが使用でき、記録された音楽データは、既存のMD機器*で再生可能です。
パソコン上のSonicStageでは、様々な編集操作や漢字やひらがなを含めた文字入力が簡単に行えます。
*LPモードで転送した場合は、MDLP対応機器のみ

MDLPとは

本機は、従来の音声圧縮技術「ATRAC : Adaptive Transform Acoustic Coding」に加え、「ATRAC3 : Adaptive Transform Acoustic Coding 3」を採用しています。この技術は、聴覚心理学に基づいて人の耳には聞こえない音をカットし、音楽データを約1/10に圧縮します。これにより、録音時間を従来の2倍、または4倍に拡張するMD長時間録音モード「MDLP : Mini Disc Long-Play mode」が可能です。80分ディスクの場合、LP2モードで約160分、LP4モードで約320分の録音・再生ができます。

MDのシステム上の制約について

MDは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行われます。そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

曲数にも録音時間にも余裕があるのに「曲数制限を超えています」や「ディスク容量が一杯です」が表示される。

同じディスクで録音、消去を繰り返すと、1曲のデータが連続して記録されず、空いているところに分割して記録されることがあります。ミニディスクは、このような場合でも離れたデータをすばやく探し出し、順に再生します。ただし、分割したそれぞれのデータは、曲の区切り（1曲）と同じ扱いになり255個（Hi-MDモードでお使いのディスクでは2,047個）になると、録音できなくなります。
さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音してください。

曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない。

ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒以下（ステレオ録音時）、24秒以下（LP2ステレオ録音）、または48秒以下（LP4ステレオ録音時）の部分は無視します。このため、短い曲を何曲消しても録音できる残り時間が増えないことがあります。

曲をつなげない。

つなごうとする曲のデータがディスク上に分散しており、それぞれのデータの長さが短いとき*、その曲のトラックマークを消して前の曲とつなぐことができない場合があります。また、異なる録音モード（例えば、リニアPCMとHi-SPなど）で録音された曲の間のトラックマークを消すことはできません。

* データの長さが次のような場合、曲をつなぐことができないことがあります。

	録音モード	データの長さ
Hi-MDモードの場合	リニアPCMステレオ Hi-SPステレオ Hi-LPステレオ	9秒以下 8秒以下 32秒以下
MDモードの場合	SPステレオ LP2ステレオ LP4ステレオ	12秒以下 24秒以下 48秒以下

ディスクに録音した時間と残りの時間の合計が、最大録音可能時間に一致しない場合がある。

通常、録音はステレオ録音時で約2秒、LP2ステレオ録音で約4秒、LP4ステレオ録音時で約8秒を最小単位としてディスクに記録します。録音を止めたところでは、記録の最後の部分が実際には2秒（4秒または8秒）に満たない場合でも約2秒（4秒または8秒）分のスペースを使います。また、録音を止めたあとまた録音を始めるときは、録音を始めたところで約2秒（4秒または8秒）分のスペースを空けて記録を始めます。これは、録音を始めるときに誤って前の曲を消さないためです。このため、実際に録音できる時間は録音を止めるたびに、最大録音可能時間よりも最大で6秒（12秒または24秒）短くなります。

ディスクの録音残り時間が、録音したい曲の総再生時間と同じでも、最後まで録音できないことがある。

Hi-SPでは約2秒、Hi-LPでは約8秒を録音時の最小単位としてディスクに記録します。
録音を止めたところでは、記録の最後の部分が最小単位に満たない場合でも最小単位分のスペースを使います。
このため、実際の録音に必要な時間は、曲の再生時間よりも長くなります。特に、多くの曲を録音するときは、録音したい曲の総再生時間とディスクの録音残り時間が同じ場合、最後まで録音できないことがあります。録音残り時間にご注意ください。

編集した曲を再生、または早送り、早戻しするときに音が途切れることがある。

短い曲がディスクの上のいろいろなところに点在していると、探すのに時間がかかり、音がとぎれることがあります。

一度高速録音した曲は、74分間は再び高速録音できない（HCMS:ハイスピードコピーマネージメントシステム）。

ある曲を高速録音すると、録音を始めた時点から74分間は、同一の曲を高速録音することができません。ハイスピードコピーマネージメントシステム（HCMS）では、CDの曲ごとに固有なデータ（ISRC: International Standard Recording Code）をもとに、録音しようとしている曲が74分以内に録音されているかどうかを判定します。
一度高速録音した曲を74分以内に高速録音しようとすると、通常の速度で録音されます。
一枚のCDの中に何曲か高速録音した曲がある場合は、その曲だけが通常の速度で録音されます。

その他

次のページへつづく

デジタルオーディオソフトをコピーするときのルールについて（シリアルコピーマネージメントシステム）

デジタルオーディオとは、音声信号を数値（デジタル）でやりとりするオーディオ機器です。コンパクトディスク（CD）、ミニディスク（MD）、デジタルオーディオテープ（DAT）などがこれにあたります。
これらは音楽を手軽に、ほとんど劣化なしでコピーできます。このため、音楽ソフトの著作権を保護するコピー規制が必要になりました。「シリアルコピーマネージメントシステム」です。
本機の設計はこのシステムに準拠しています。概要は以下の通りです。

デジタル信号同士のコピー*は1世代まで

原則1

市販のデジタル音楽ソフトのコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

原則2

市販のアナログ音楽ソフト（アナログレコードやミュージックカセットテープ）や公共放送を録音したもののコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

MDプレーヤーのアナログ出力端子同士をつないで録音した場合のように、デジタル信号をアナログ信号にして録音した場合はこの原則に当たりません。

* コピーとはここでは「デジタル信号をデジタル信号のまま録音したもの」を指します。

ご注意

著作権を保護するためのコピーコントロール信号を除去、改変してコピーを作成することは、個人として楽しむ目的であっても法律で禁止されています。

索引

五十音順

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

次のページへつづく

索引（つづき）

マ行

ラ行

アルファベット順

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

●ホームページで調べるには ⇨ パーソナルオーディオ・カスタマーサポートへ（http://www.sony.co.jp/support-pa/）

本機に関する最新サポート情報や、お問い合わせが多い質問とその回答をご案内しています。

●電話・FAXでのお問い合わせは ⇨ お客様ご相談センターへ（下記電話・FAX番号）

- 本機の商品カテゴリーは[オーディオ]−[ホームオーディオ]です。
- お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。
  - ◆ セット本体に関するご質問時：
    - 型名：CMT-AH10
    - 製造（シリアル）番号：記載位置は別紙「カスタマー登録のお願い」を参照
    - ご相談内容：できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日
  - ◆ 付属のソフトウェアに関連するご質問時：
    - ソフトウェアのバージョン：
    - お使いのパソコン（メーカー名/型名）：
    - パソコンにインストールされているOS名：
    - メモリ容量／ハードディスクの空き容量：
    - CD-ROMドライブの型名／種類（外付けまたは内蔵）：
    - エラーメッセージ（エラーメッセージが表示された場合）：

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル ･･････････ 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は･･･03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX ････････････････････････ 0466-31-2595

受付時間 ：月〜金 9:00〜20:00　土・日・祝日 9:00〜17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

パーソナルコンポーネントシステム
CMT-AH10
T10-1001A-2

「お問い合わせ窓口のご案内」については、裏をご覧ください。

ソニー株式会社
〒141-0001
東京都品川区北品川6-7-35

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in China